

【表紙】

| | |
|------------|---|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【提出先】 | 関東財務局長殿 |
| 【提出日】 | 平成27年3月17日提出 |
| 【計算期間】 | 第11特定期間(自 平成26年6月18日至 平成26年12月17日) |
| 【ファンド名】 | 資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース> (毎月分配型) 資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース> (毎月分配型) 資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース> (毎月分配型) |
| 【発行者名】 | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役 村上 雅彦 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都港区赤坂九丁目7番1号 |
| 【事務連絡者氏名】 | 雄谷 敦史 |
| 【連絡場所】 | 東京都港区赤坂九丁目7番1号 |
| 【電話番号】 | 03-6447-6147 |
| 【縦覧に供する場所】 | 該当事項はありません。 |

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

主として、世界の資源株に投資を行なうとともに各コースの通貨で実質的な運用を行なう投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざします。

ファンドの基本的性格

1) 商品分類

| 単位型投信・追加型投信 | 投資対象地域 | 投資対象資産 (収益の源泉) |
|-------------|--------|-------------------|
| 単位型投信 | 国内 | 株式 |
| | 海外 | 債券 不動産投信 |
| 追加型投信 | 内外 | その他資産 () |
| | | 資産複合 |

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

追加型投信

一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行なわれ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

内外

目論見書または投資信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。

株式

目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

2) 属性区分

| 投資対象資産 | 決算頻度 | 投資対象地域 | 投資形態 | 為替ヘッジ |
|-----------------------------|------------|-----------------|------------------|-------|
| 株式 一般 | 年1回 | グローバル (含む日本) | | |
| 大型株 | 年2回 | | | |
| 中小型株 | 年4回 | 日本 | | |
| 債券 | | 北米 | ファミリーファンド | あり |
| 一般 | 年6回 | | | () |
| 公債 | (隔月) | 欧州 | | |
| 社債 | | | | |
| その他債券 | 年12回 | アジア | | |
| クレジット属性 () | (毎月) | オセアニア | | |
| 不動産投信 | 日々 | 中南米 | ファンド・オブ・ ファンズ | なし |
| その他資産 (投資信託証券(株式 一般)) | その他 () | アフリカ | | |
| 資産複合 () | | 中近東 (中東) | | |
| 資産配分固定型 | | エマージング | | |
| 資産配分変更型 | | | | |

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

その他資産（投資信託証券（株式 一般））

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、株式に投資を行いません。よって、商品分類の「投資対象資産（収益の源泉）」においては、「株式」に分類されます。

年12回（毎月）

目論見書または投資信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。

グローバル（含む日本）

目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を含む世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

ファンド・オブ・ファンズ

「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。

為替ヘッジなし

目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行なう旨の記載がないものをいいます。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

上記は、一般社団法人投資信託協会が定める分類方法に基づき記載しています。

上記以外の商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

ファンドの特色

1 主として世界の資源株に投資を行ない、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

- 世界の資源株への投資は、米ドル建てで行ないます。
 - 原則として、米国以外の取引所に上場している資源株への投資にあたっては、ADR(米国預託証券)*を利用します。
- *ADR(米国預託証券)とは、企業の国際的な資金調達を容易にすることなどを目的に、株式の代わりに発行される有価証券(証券)です。
ADRは米ドル建てであり、ニューヨーク証券取引所などで株式と同様に取引ができます。

2 「ブラジルリアル・コース」「南アフリカランド・コース」「オーストラリアドル・コース」「米ドル・コース」の4つのコースがあります。

ブラジルリアル・コース 南アフリカランド・コース オーストラリアドル・コース

- 資源国通貨で実質的な運用を行なう3コース(通貨運用を行なうコース)では、各コースの通貨で為替取引(対米ドル)を行なうことにより、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)*などの享受が期待できます。
- *各資源国通貨と米ドル間の金利差水準によっては、金利差相当分が為替取引によるコストとなる場合があります。

米ドル・コース

- 米ドル・コースでは、世界の資源株を米ドル建てのまま運用します。
- ※当ファンドの基準価額は、各コースの通貨の対円での為替変動に加えて、ADRの価格に含まれる当該現地株式の通貨と米ドル間の為替変動の影響も受けます。
- ※各コースの間でスイッチングを行なうことができます。ただし、販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングを行なえない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

3 毎月、収益分配を行なうことをめざします。

- 値上がり益および配当等収益などを原資として、毎決算時に収益分配を行なうことをめざします。
 - 毎月17日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。
- ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。



*1 当ファンドでは、エネルギー株、素材株、農業・食料株などを総称して「資源株」と言います。

*2 当ファンドでは、原則として、米国以外の取引所に上場している資源株への投資にあたっては、ADR(米国預託証券)を利用します。

※お選びいただく通貨コースにより、投資成果は異なります。

世界の資源株への投資

- 世界的に資源需要の拡大が見込まれる一方で、資源の有限性および供給能力の限界により、今後、需給の逼迫が見込まれます。また、世界レベルで環境対応が求められることや、最近では、技術革新に伴うシェールガス/オイル探掘の実現などにより、新エネルギー分野の成長も期待されています。こうした状況が、資源株の中長期的な上昇期待を支えていくものと考えられます。

資源株投資のストーリー



※上記は一般論であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

ご参考



※Btuとは、エネルギーの熱量を表す単位です。

出所:米国エネルギー省「International Energy Outlook 2013」、国連「世界人口予測:2012年改訂版」

※グラフおよびデータは過去のものまたは予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

通貨運用について

ブラジルレアルコース 南アフリカランドコース オーストラリアドルコース

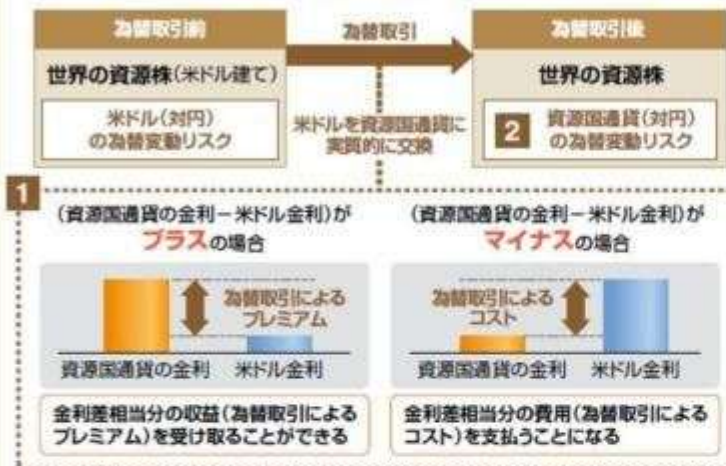
- 各コースの通貨で為替取引(対米ドル)を行なうことにより、実質的に資源国通貨で運用します。

※ADRに投資を行なう場合、その価格は当該現地株式の通貨と米ドル間の為替変動の影響を受けるため、各コースの基準価額は、各コースの通貨の対円での為替変動に加えて、ADRの価格に含まれる為替変動の影響も受けます。

- ブラジル、南アフリカ、オーストラリアの各通貨の金利が米ドル金利よりも高い場合、その金利差相当分を為替取引によるプレミアムとして享受することが期待できます。

為替取引とは、実質的な運用先通貨を交換する手段

【為替取引のイメージ】



※為替取引を完全に行なうことができるとは限らないため、場合によっては対象通貨間の金利差を十分に享受することができない可能性があります。

為替取引とは、主に為替予約取引などを利用して、実質的な運用先通貨を換える(通貨交換)手段です。通貨運用を行なうコースでは、こうした通貨交換によって、

- 1 資源国通貨と米ドルの金利差相当分
- 2 対円での資源国通貨の為替変動

という影響を受けることとなります。

ADR投資における為替変動リスクについて

当ファンドでは、ADRにも投資を行いません。ADRの値動きには、当該現地株式の価格変動に加えて、

- 3 当該現地株式の通貨と米ドル間の為替変動
- の影響が含まれています。

そのため、通貨運用を行なうコースの実質的な為替変動リスクは、

- 2 と 3 の影響を合わせたものとなります。

●当資料で用いる「金利」とは、短期金利をさします。

※図はイメージです。

米ドルコース

- 世界の資源株を米ドル建てのまま運用します。

※ADRに投資を行なう場合、その価格は当該現地株式の通貨と米ドル間の為替変動の影響を受けるため、当コースの基準価額は、米ドルの対円での為替変動に加えて、ADRの価格に含まれる為替変動の影響も受けます。

ご参考

【株式配当利回りと各通貨の金利差相当分】

(2014年12月末)



※金利差相当分:各通貨の短期金利から米ドル短期金利を差し引いて算出。使用している各金利は以下の通り。
ブラジルレアル:CD(譲渡性預金証券)レート1ヵ月
南アフリカランド:ヨハネスブルグ・インターバンク・アグリドレート1ヵ月
オーストラリアドル:1ヵ月物銀行手形金利
米ドル:1ヵ月LIBOR

株式配当利回り:当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」の株式配当利回り

※金利差相当分は、各資源国通貨と米ドル間の金利差水準によっては為替取引によるコストとなり、運用成果にマイナスに働くこともあります。
※実際の運用においては、為替取引時の手数料相当額などが金利差相当分に加味されます。




※グラフおよびデータは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

資源国通貨について

- ブラジル、南アフリカ、オーストラリアでは、「資源を強みとした経済成長への期待」と「相対的に高い金利水準」という2つの強みを武器に、通貨への注目も高まっています。
- 過去の値動きをみると、ブラジルレアル、南アフリカランド、オーストラリアドルのリスクは、米ドルに比べて高い水準となっています。

世界経済の根幹を支える資源国

【資源国の特長】

| | |
|--|---|
|  ブラジル | 輸出と内需を成長の原動力とする BRICsの優等生 <代表的な資源>鉄鉱石、さとうきび、大豆 など |
|  南アフリカ | レアメタルに恵まれ、自動車製造拠点 としての役割を担うアフリカ大陸の雄 <代表的な資源>金、ダイヤモンド、レアメタル など |
|  オーストラリア | アジア向け輸出を武器に安定成長を遂げる 南半球の先進国 <代表的な資源>鉄鉱石、ボーキサイト、小麦 など |

ご参考

【各コースの通貨(対円)のリスク】

(2000年1月末～2014年12月末)



リスクは、上記期間の各通貨の月次騰落率の標準偏差を年率換算したものです。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※グラフおよびデータは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

ファンドの仕組み

当ファンドは、投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。



●各コースの間でスイッチングを行なうことができます。ただし、販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングを行なえない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

※スイッチング対象ファンドの一方のファンドに関して、委託会社が約款に定める事由に該当したと判断したことにより、購入・換金申込みの受付を中止、もしくは、既に受付けた購入・換金申込みの受付を取り消した場合には、もう一方のスイッチング対象ファンドに関して、当該ファンドについて約款に定める中止・取消事由が生じているか否かにかかわらず、原則として、スイッチングによる購入・換金申込みの受付を中止、もしくは、既に受付けたスイッチングによる購入・換金申込みの受付を取り消します。

※投資成果に大きく影響しますので、スイッチングは、十分ご検討の上、慎重にご判断ください。

■主な投資制限

- ・投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。
- ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

■分配方針

<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース>

・毎決算時に、分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。
 ※「原則として、安定した分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移することなどを示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況などによっては安定した分配とならない場合があることにご留意ください。

<米ドル・コース>

・毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ



- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



前期決算から基準価額が下落した場合



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



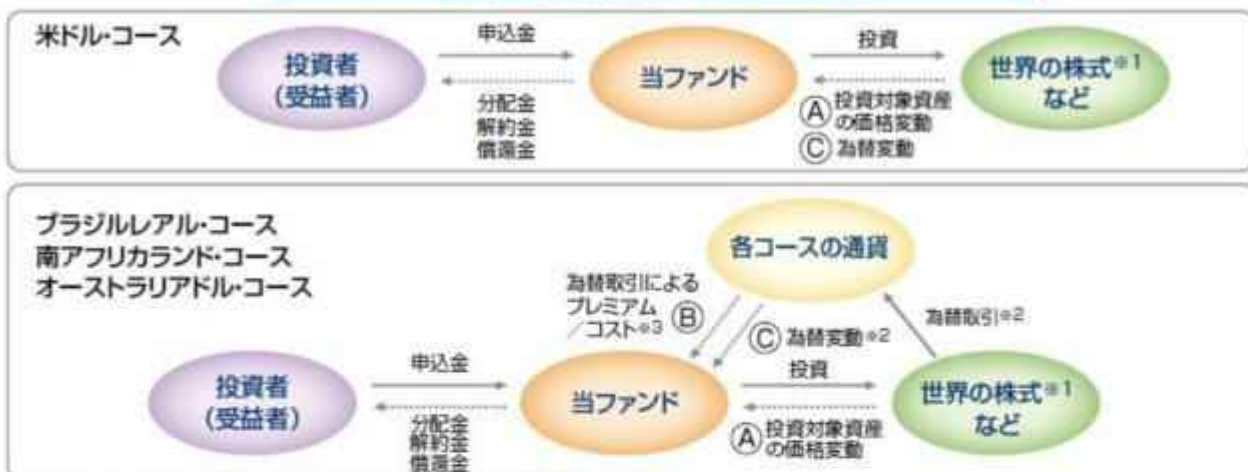
※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

- ・普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
- ・元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、(特別分配金)元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

通貨選択型ファンドの収益に関する留意事項

- 通貨選択型の投資信託は、投資対象資産（株式や債券など）の運用に加えて、為替取引による通貨の運用も行っており、為替取引の対象となる通貨を選択することができます。

通貨選択型の投資信託のイメージ図



※1 当ファンドは、外国投資信託を通じて世界の株式に投資を行いません。

※2 各コースの通貨と円の為替変動リスクがあります。

※3 為替取引によるプレミアム/コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益/費用です。

- 通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。なお、収益源である3つの要素にはリスクが内在しています。詳しくは、後述の「投資リスク」をご覧ください。

| 収益の源泉 | | (A) 株価の値上がり/値下がり | (B) 為替ヘッジプレミアム/コスト | (C) 為替差益/差損 |
|---|----------------|------------------|---------------------------------------|--------------------------|
| 米ドルコース | 収益を得られるケース | 株価の上昇* | 為替ヘッジを行なわないのでありません。 | 為替差益の発生 原資産通貨に対して円安 |
| | 損失やコストが発生するケース | 株価の下落* | | 為替差損の発生 原資産通貨に対して円高 |
| 収益の源泉 | | (A) 株価の値上がり/値下がり | (B) 為替取引によるプレミアム/コスト | (C) 為替差益/差損 |
| ブラジルリアルコース 南アフリカランドコース オーストラリアドルコース | 収益を得られるケース | 株価の上昇* | プレミアム(金利差相当分の収益)の発生 各コースの通貨の金利がプラス | 為替差益の発生 各コースの通貨に対して円安 |
| | 損失やコストが発生するケース | 株価の下落* | コスト(金利差相当分の費用)の発生 各コースの通貨の金利がマイナス | 為替差損の発生 各コースの通貨に対して円高 |

*ADRに投資する場合、ADRの価格には、当該現地株式の通貨に対する米ドルの変動が含まれます。そのため、当該現地株式の通貨に対して米ドル安であれば、株価上昇要因、当該現地株式の通貨に対して米ドル高であれば、株価下落要因となります。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

通貨運用に関する留意事項

- 各通貨の運用に当たっては、直物為替先渡取引(NDF取引)を活用する場合があります。
- NDF取引とは、投資対象通貨を用いた受渡を行わず、主に米ドル等による差金決済のみを行なう取引のことを言います。
- NDF取引では、需給や規制などの影響により、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)が、短期金利から算出される理論上の水準から乖離する場合があります。そのため、想定している投資成果が得られない可能性があります。

■ 為替取引には、為替ヘッジ(原資産通貨を売り、円を買う取引)が含まれています。為替ヘッジの場合、「為替取引によるプレミアム/コスト」を「為替ヘッジプレミアム/コスト」といいます。

信託金限度額

- ・ 各ファンド毎に、5,000億円を限度として信託金を追加することができます。
- ・ 委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

（２）【ファンドの沿革】

平成21年11月20日

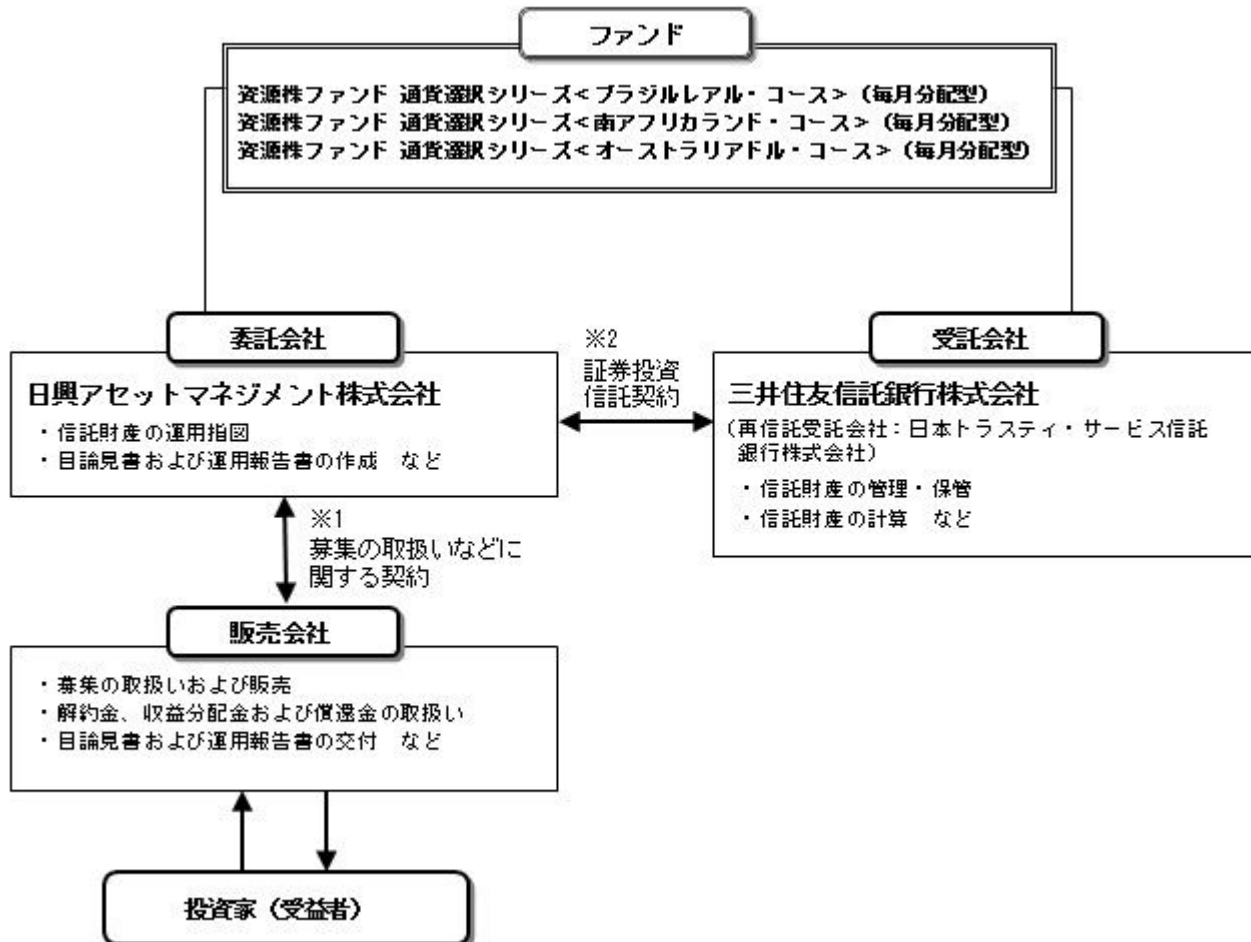
- ・ファンドの信託契約締結、運用開始

平成26年 3月18日

- ・信託期間の更新（信託終了日を平成31年 6月17日から平成36年 6月17日へ変更）

（３）【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



- 1 投資信託を販売するルールを委託会社と販売会社の間で規定したものです。販売会社が行なう募集の取扱い、収益分配金・償還金の支払い、解約請求の受付の業務範囲の取決めの内容などが含まれています。
- 2 投資信託を運営するルールを委託会社と受託会社の間で規定したものです。運用の基本方針、投資対象、投資制限、信託報酬、受益者の権利、募集方法の取決めの内容などが含まれています。

<ファンド・オブ・ファンズの仕組み>

当ファンドは、投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。



委託会社の概況（平成26年12月末現在）

- 1) 資本金
17,363百万円
- 2) 沿革
昭和34年：日興証券投資信託委託株式会社として設立
平成11年：日興国際投資顧問株式会社と合併し「日興アセットマネジメント株式会社」に社名変更
- 3) 大株主の状況

| 名称 | 住所 | 所有株数 | 所有比率 |
|---------------|---|--------------|--------|
| 三井住友信託銀行株式会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 | 179,869,100株 | 91.29% |
| DBS Bank Ltd. | 6 Shenton Way, #46-00, DBS Building Tower One, Singapore 068809 | 14,283,400株 | 7.24% |

2【投資方針】

(1)【投資方針】

- ・主として、世界の資源関連企業が発行する株式（預託証券を含みます。）を投資対象とする別に定める投資信託証券の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
- ・投資信託証券の合計組入比率は、高位を保つことを原則とします。各投資信託証券への投資比率は、原則として、市況環境および投資対象ファンドの収益性などを勘案して決定します。なお、資金動向などによっては、各投資信託証券への投資比率を引き下げることもあります。
- ・別に定める投資信託証券については、収益機会の追求やリスクの分散などを目的として、適宜見直しを行ないます。この際、定性評価や定量評価などを勘案のうえ、新たに投資信託証券を指定したり、既に指定されていた投資信託証券を外したりする場合があります。
- ・ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

(2)【投資対象】

投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投

資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。以下同じ。)を主要投資対象とします。

投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- 1) 有価証券
- 2) 金銭債権
- 3) 約束手形
- 4) 為替手形

主として、別に定めるマザーファンドの受益証券および別に定めるマザーファンドを除く投資信託証券ならびに次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することができます。

- 1) 短期社債等(社債、株式等の振替に関する法律第66条第1号に規定する短期社債、同法第117条に規定する相互会社の社債、同法第118条に規定する特定社債および同法第120条に規定する特別法人債をいいます。)およびコマーシャル・ペーパー
- 2) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1)の証券の性質を有するもの
- 3) 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)

次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することができます。

- 1) 預金
- 2) 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
- 3) コール・ローン
- 4) 手形割引市場において売買される手形

次の取引ができます。

- 1) 外国為替予約取引
- 2) 資金の借入

投資対象とする投資信託証券の概要

- <ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス>(ケイマン籍円建外国投資信託)
- <ナチュラル・リソース・ファンド 南アフリカランド・クラス>(ケイマン籍円建外国投資信託)
- <ナチュラル・リソース・ファンド オーストラリアドル・クラス>(ケイマン籍円建外国投資信託)

運用の基本方針

| | |
|--------|--|
| 基本方針 | 信託財産の中長期的な成長をめざします。 |
| 主な投資対象 | 世界の米ドル建て資源関連株式(預託証書を含みます。)を主要投資対象とします。 |
| 投資方針 | <p><全クラス共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の米ドル建て資源関連株式(預託証書を含みます。)を主要投資対象とします。 ・銘柄選択にあたっては、企業の財務データなどに基づく定量分析と業界内での競争力や経営者のマネジメント能力の評価といった定性分析を実施します。 <p><ブラジルリアル・クラス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、純資産総額と同額程度のブラジルリアル買い/米ドル売りの為替取引を行ないます。 <p><南アフリカランド・クラス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、純資産総額と同額程度の南アフリカランド買い/米ドル売りの為替取引を行ないます。 <p><オーストラリアドル・クラス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、純資産総額と同額程度のオーストラリアドル買い/米ドル売りの為替取引を行ないます。 |
| 主な投資制限 | <ul style="list-style-type: none"> ・株式への投資割合に制限を設けません。 ・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 |

| | |
|------------------|---|
| 収益分配 | 原則として、毎月12日(休日の場合は翌営業日)に分配を行いません。 なお、管理会社の判断により収益分配を行わないことがあります。 |
| ファンドに係る費用 | |
| 信託報酬など | 純資産総額に対して年率0.71%以内 (国内における消費税等相当額はかかりません。) |
| 申込手数料 | ありません。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |
| その他の費用など | 事務管理費用、資産の保管費用、有価証券売買時の売買委託手数料、設立に係る費用、法律顧問費用、監査費用、信託財産に関する租税など。 |
| その他 | |
| 投資顧問会社 | 日興アセットマネジメント アメリカズ・インク |
| 管理会社 | 日興AMグローバル・ケイマン・リミテッド |
| 信託期間 | 2109年12月31日まで |
| 決算日 | 原則として、毎年2月末日 |

上記の投資対象とする投資信託証券については、日々の基準価額が取得できるため、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、当ファンドにおいてデリバティブ取引等の投資制限に係る管理を行いません。

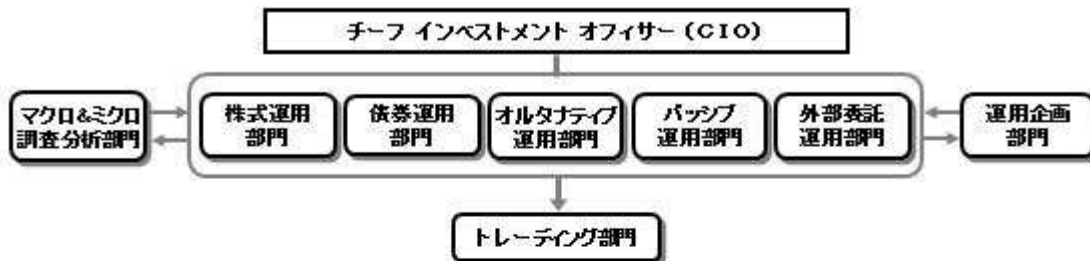
< マネー・アカウント・マザーファンド >

| | |
|------------------|---|
| 運用の基本方針 | |
| 基本方針 | 公社債への投資により、安定した収益の確保をめざして安定運用を行いません。 |
| 主な投資対象 | わが国の国債および格付の高い公社債を主要投資対象とします。 |
| 投資方針 | <ul style="list-style-type: none"> 主として、わが国の国債および格付の高い公社債に投資を行ない、利息等収益の確保をめざして運用を行いません。 ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。 |
| 主な投資制限 | <ul style="list-style-type: none"> 株式(新株引受権証券、新株予約権証券および新株引受権付社債券を含みます。)への投資は行ないません。 外貨建資産への投資は行ないません。 デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないものとします。 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。 |
| 収益分配 | 収益分配は行ないません。 |
| ファンドに係る費用 | |
| 信託報酬 | ありません。 |
| 申込手数料 | ありません。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |

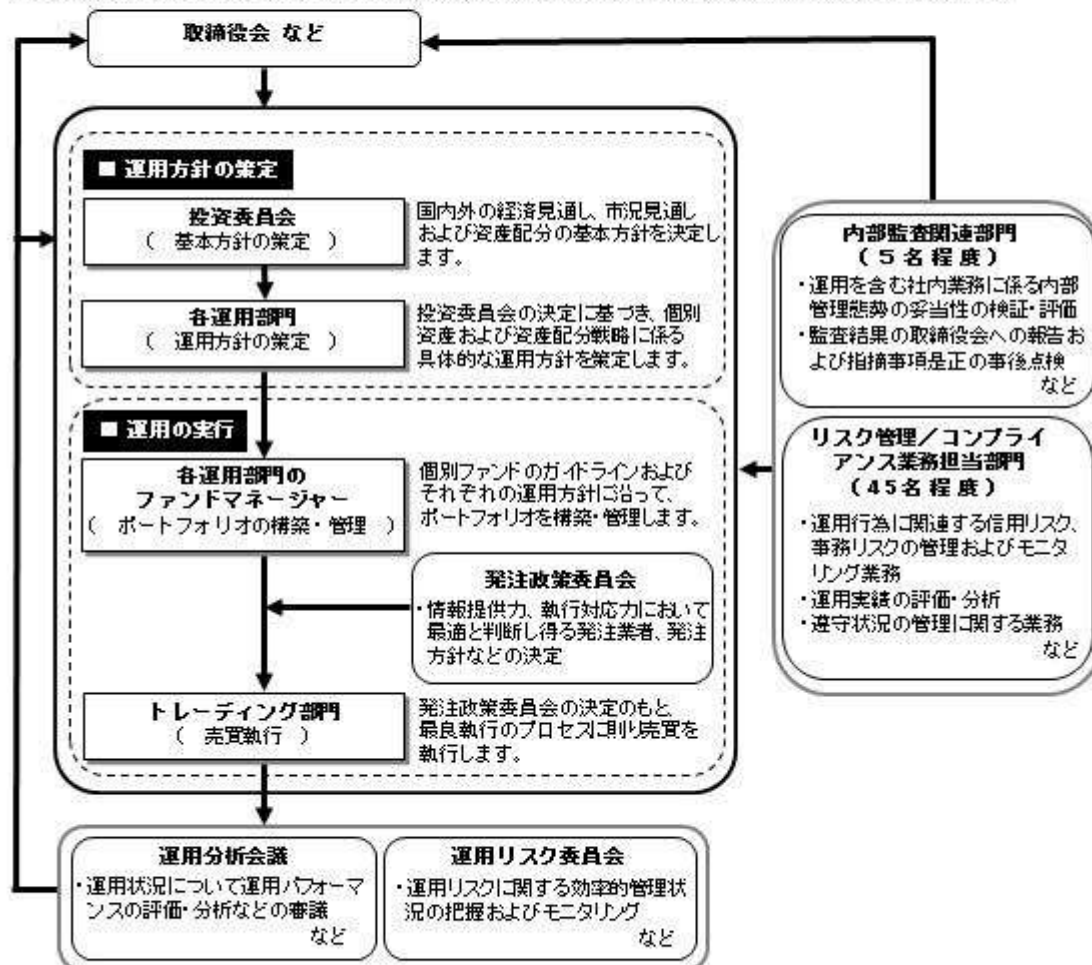
| | |
|------------|---|
| その他の費用など | 組入有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税など。 上記費用に付随する消費税等相当額を含みます。 |
| その他 | |
| 委託会社 | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社 |
| 信託期間 | 無期限（平成21年10月30日設定） |
| 決算日 | 毎年10月12日（休業日の場合は翌営業日） |

(3) 【運用体制】

◆委託会社における運用体制は以下の通りです。



◆委託会社の運用体制における内部管理および意思決定を監督する組織などは以下の通りです。



委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

「受託会社」に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っております。また、独立した監査法人が所定の手続きで受託業務について監査を行っており、内部統制が有効に機能している旨の監査報告書を定期的に受け取っております。

上記体制は平成26年12月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

（４）【分配方針】

収益分配方針

毎決算時に、原則として次の通り収益分配を行なう方針です。

１）分配対象額の範囲

経費控除後の利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）などの全額とします。

２）分配対象額についての分配方針

分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

３）留保益の運用方針

収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、約款に定める運用の基本方針に基づき運用を行ないます。

収益分配金の支払い

<分配金再投資コース>

原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。

<分配金受取りコース>

毎計算期間終了日後 1 ヶ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して 5 営業日まで）から収益分配金を支払います。支払いは販売会社において行なわれます。

（５）【投資制限】

約款に定める投資制限

１）投資信託証券、短期社債等（社債、株式等の振替に関する法律第66条第 1 号に規定する短期社債、同法第117条に規定する相互会社の社債、同法第118条に規定する特定社債および同法第120条に規定する特別法人債をいいます。）、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。

２）有価証券先物取引等の派生商品取引ならびに有価証券の貸付、空売りおよび借入れは行ないません。

３）投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。

４）外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

５）信託財産に属する外貨建資産の時価総額と投資信託証券またはマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額との合計額について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

６）信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、解約に伴なう支払資金の手当て（解約に伴なう支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、および再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとし、資金借入れ額および借入期間は、次に掲げる要件を満たす範囲内とします。

イ）解約に伴なう支払資金の手当てにあたっては、解約金の支払資金の手当てのために行なった有価証券等の売却または解約等ならびに有価証券等の償還による受取りの確定している資金の額の範囲内

ロ）再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てにあたっては、収益分配金の再投資額の範囲内

ハ）借入指図を行なう日における信託財産の純資産総額の範囲内

ニ）解約に伴なう支払資金の手当てのための借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が 5 営業日以内である場合の当該期間とします。

ホ）再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てのための借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとします。

３【投資リスク】

（１）ファンドのリスク

当ファンドの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。基準価額変動リスクの大きいファンドですので、お申込みの際は、当ファンドのリスクを十分に認識・検討し、慎重に投資のご判断を行なっていただく必要があります。

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・当ファンドは、主に株式（預託証券を含みます。以下同じ。）を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

- ・一般に株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・一般に新興国の株式は、先進国の株式に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- ・一般に公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

流動性リスク

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・一般に新興国の株式は、先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

信用リスク

- ・一般に投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、金融商品取引所が定める一定の基準に該当した場合、上場が廃止される可能性があり、廃止される恐れや廃止となる場合も発行体の株式などの価格は下がり、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・一般に公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。
- ・格付を有する債券については、当該格付の変更に伴ない価格が下落するリスクもあります。
- ・ファンドの資金をコール・ローン、譲渡性預金証書などの短期金融資産で運用することがありますが、買付け相手先の債務不履行により損失が発生することがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

為替変動リスク

ブラジルリアル・コース

- ・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として米ドル売り、ブラジルリアル買いの為替取引を行なうため、ブラジルリアルの為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場がブラジルリアルに対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。なお、為替取引を完全に行なうことができるとは限らないため、場合によってはブラジルリアルと米ドルの2通貨間の金利差を十分に享受することができない可能性や、米ドルの対円での為替変動の影響を受ける可能性があります。また、ブラジルリアルの金利が米ドル金利より低い

場合、米ドルとブラジルレアルの金利差相当分の為替取引によるコストが発生します。

- ・投資対象とする外国投資信託の組入資産であるADRの値動きは、当該企業の株式の価格変動に加えて、当該株式の発行国通貨の米ドルに対する為替変動の影響を受けます。
- ・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

南アフリカランド・コース

- ・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として米ドル売り、南アフリカランド買いの為替取引を行なうため、南アフリカランドの対円での為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場が南アフリカランドに対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。なお、為替取引を完全に行なうことができるとは限らないため、場合によっては南アフリカランドと米ドルの2通貨間の金利差を十分に享受することができない可能性や、米ドルの対円での為替変動の影響を受ける可能性があります。また、南アフリカランドの金利が米ドル金利より低い場合、米ドルと南アフリカランドの金利差相当分の為替取引によるコストが発生します。
- ・投資対象とする外国投資信託の組入資産であるADRの値動きは、当該企業の株式の価格変動に加えて、当該株式の発行国通貨の米ドルに対する為替変動の影響を受けます。
- ・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

オーストラリアドル・コース

- ・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として米ドル売り、オーストラリアドル買いの為替取引を行なうため、オーストラリアドルの対円での為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場がオーストラリアドルに対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。なお、為替取引を完全に行なうことができるとは限らないため、場合によってはオーストラリアドルと米ドルの2通貨間の金利差を十分に享受することができない可能性や、米ドルの対円での為替変動の影響を受ける可能性があります。また、オーストラリアドルの金利が米ドル金利より低い場合、米ドルとオーストラリアドルの金利差相当分の為替取引によるコストが発生します。
- ・投資対象とする外国投資信託の組入資産であるADRの値動きは、当該企業の株式の価格変動に加えて、当該株式の発行国通貨の米ドルに対する為替変動の影響を受けます。

カントリー・リスク

- ・投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。
- ・ファンドの投資対象資産が上場または取引されている諸国の税制は各国によって異なります。また、それらの諸国における税制が一方的に変更されたり、新たな税制が適用されたりすることもあります。以上のような要因は、ファンドの信託財産の価値に影響を与える可能性があります。

ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

<その他の留意事項>

- ・システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場および外国為替市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により有価証券取引や為替取引などが一時的に停止されることがあります。これにより、ファンドの投資方針に従った運用ができない場合があります。上記の状況が発生した場合や、その他の事由により基準価額の算出が困難となる状況が発生した場合などには、委託会社の判断により一時的に取得・換金の取り扱いを停止することもあります。

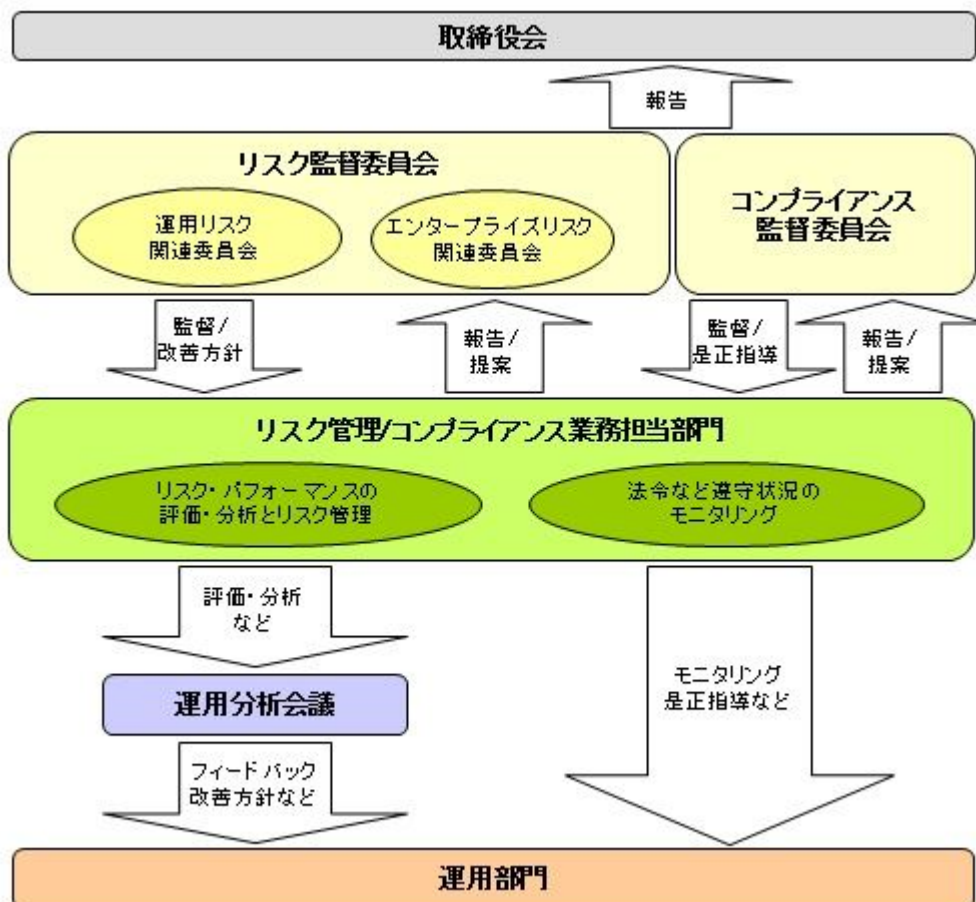
- ・投資対象とする投資信託証券に関する事項

諸事情により、投資対象とする投資信託証券にかかる投資や換金ができない場合があります。これにより、ファンドの投資方針に従った運用ができなくなる場合があります。また、一時的にファンドの取得・換金ができなくなることもあります。

ファンドが投資対象とする投資信託証券（マザーファンドを含みます。）と同じ投資信託証券に投資する他のファンドにおいて、解約・償還・設定などに伴う資金流出入などがあり、その結果、当該投資信託証券において有価証券の売買などが生じた場合には、ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

- ・解約によるファンドの資金流出に伴う基準価額変動に関する事項
一度に大量の解約があった場合に、解約資金の手当てをするため保有している有価証券を一度に大量に売却することがあります。その際は評価価格と実際の取引価格に差が生じるなどして、ファンドの基準価額が大きく変動する可能性があります。
- ・基準価額の妥当性に疑義が生じた場合の取得・換金の停止に関する事項
ファンドの基準価額の算出に用いた評価価格と実際の取引価格に差が生じるなど、基準価額の妥当性に疑義が生じる場合は、委託会社の判断により、一時的に取得・換金の取扱いを停止する場合があります。
- ・運用制限や規制上の制限に関する事項
関係する法令規制上、または社内方針などにより取引が制限されることがあります。例えば、委託会社またはその関連会社が特定の銘柄の未公開情報を受領している場合には、当該銘柄の売買が制限されることがあります。また、委託会社またはその関連会社が行なう投資または他の運用業務に関連して、取引が制限されることもあります。したがって、これらの制限により当ファンドの運用実績に影響を及ぼす可能性があります。
- ・法令・税制・会計方針などの変更に関する事項
ファンドに適用される法令・税制・会計方針などは、今後変更される場合があります。

（２）リスク管理体制



全社リスク管理

当社では運用部門、営業部門と独立した組織であるリスク管理/コンプライアンス業務担当部門を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。当社グループの法令などの遵守状況についてはコンプライアンス部門が事務局を務めるコンプライアンス監督委員会、リスク管理状況についてはリスク管理部門が事務局を務めるリスク監督委員会を通して経営陣に報告され、更に年一度以上取締役会に対して全体的な活動状況を報告しております。両委員会およびそれに関連する部門別委員会においては、法令遵守状況や各種リスク（運用リスク、事務リスク、システムリスクなど）に関するモニタリングと

その報告に加えて、重要事故への対応と各種リスク対応、事故防止のための施策やその管理手法の構築などの支援に努めております。

リスク・パフォーマンスの評価・分析とリスク管理

ファンド財産について運用状況の評価・分析と運用プロセスおよびリスク運営状況のモニタリングを行いません。運用パフォーマンスおよびリスクに係る評価と分析の結果については運用分析会議に報告し、リスク管理状況についてはリスク監督委員会あるいはその部門別委員会へ報告され、問題点の原因の究明や改善策策定が図られます。加えて外部委託運用部門は、外部委託ファンドの運用管理を行ない、投資方針に沿った運用が行なわれているかなどのモニタリングを行なっています。

法令など遵守状況のモニタリング

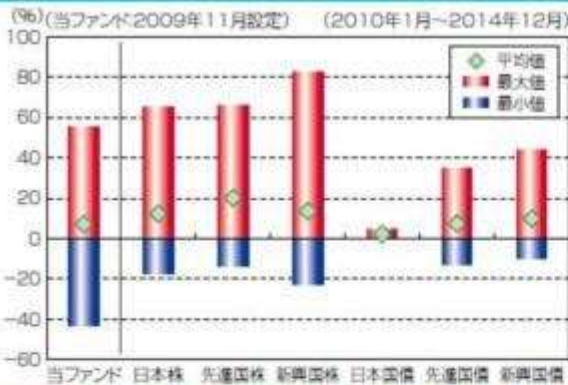
運用における法令・諸規則、信託約款などの遵守状況については、コンプライアンス業務担当部門が管理を行いません。問題点についてはコンプライアンス関連の委員会に報告され、必要に応じ運用部門に対し是正指導が行なわれるなど、適切に管理・監督を行いません。

上記体制は平成26年12月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(参考情報)

ブラジルリアル・コース

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率および最小騰落率(%))

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|------|--------|--------|
| 平均値 | 7.2% | 12.3% | 20.2% | 13.7% | 2.3% | 7.5% | 10.0% |
| 最大値 | 55.1% | 65.0% | 65.7% | 82.4% | 4.5% | 34.9% | 43.7% |
| 最小値 | -43.1% | -17.0% | -13.6% | -22.8% | 0.4% | -12.7% | -10.1% |

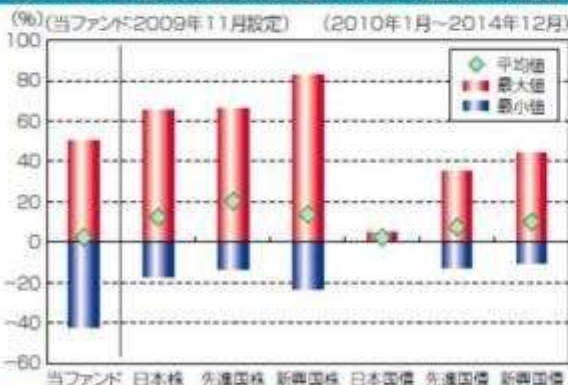
※上記は当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※上記は2010年1月から2014年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。ただし、当ファンドは直近1年間の騰落率が5年分ないため、設定日以降算出できる値を使用しています。

南アフリカランド・コース

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率および最小騰落率(%))

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|------|--------|--------|
| 平均値 | 2.4% | 12.3% | 20.2% | 13.7% | 2.3% | 7.5% | 10.0% |
| 最大値 | 50.1% | 65.0% | 65.7% | 82.4% | 4.5% | 34.9% | 43.7% |
| 最小値 | -42.0% | -17.0% | -13.6% | -22.8% | 0.4% | -12.7% | -10.1% |

※上記は当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※上記は2010年1月から2014年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。ただし、当ファンドは直近1年間の騰落率が5年分ないため、設定日以降算出できる値を使用しています。

当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。※分配金再投資基準価額は、2010年1月末の基準価額を起点として指数化しています。

※当ファンドの分配金再投資基準価額および年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の基準価額および実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

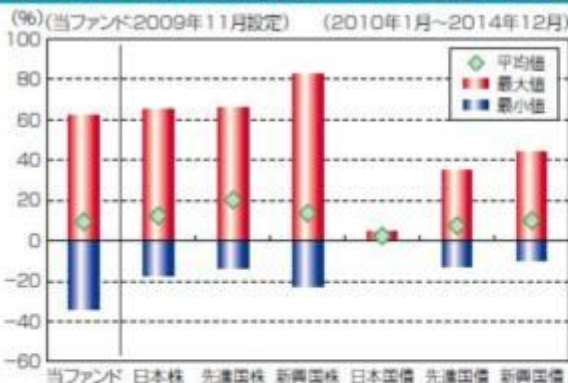


※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。※分配金再投資基準価額は、2010年1月末の基準価額を起点として指数化しています。

※当ファンドの分配金再投資基準価額および年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の基準価額および実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

オーストラリアドル・コース

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率および最小騰落率(%))

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|------|--------|--------|
| 平均値 | 9.4% | 12.3% | 20.2% | 13.7% | 2.3% | 7.5% | 10.0% |
| 最大値 | 62.3% | 65.0% | 65.7% | 82.4% | 4.5% | 34.9% | 43.7% |
| 最小値 | -34.2% | -17.0% | -13.6% | -22.8% | 0.4% | -12.7% | -10.1% |

※上記は当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
 ※上記は2010年1月から2014年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。ただし、当ファンドは直近1年間の騰落率が5年分ないため、設定日以降算出できる値を使用しています。

<各資産クラスの指数>

日本株……東証株価指数(TOPIX、配当込)
 先進国株……MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込、円ベース)
 新興国株……MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込、円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万円当たりの値です。
 ※分配金再投資基準価額は、2010年1月末の基準価額を起点として指数化しています。

※当ファンドの分配金再投資基準価額および年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の基準価額および実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

東証株価指数(TOPIX、配当込)

当指数は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込、円ベース)

当指数は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込、円ベース)

当指数は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

当指数は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

当指数は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド(円ヘッジなし、円ベース)

当指数は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC

に帰属します。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込手数料（スイッチングの際の申込手数料を含みます。）につきましては、販売会社が定めるものとします。申込手数料率につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

- ・販売会社における申込手数料率は3.78%（税抜3.5%）が上限となっております。
- ・申込手数料の額（1口当たり）は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に申込手数料率を乗じて得た額とします。
- ・＜分配金再投資コース＞の場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、申込手数料はかかりません。
- ・販売会社によっては、償還乗換、乗換優遇の適用を受けることができる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

申込手数料は、商品および関連する投資環境の説明や情報提供など、ならびに購入に関する事務コストの対価です。

(2)【換金（解約）手数料】

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

(3)【信託報酬等】

信託報酬

| 信託報酬率（年率）＜純資産総額に対し＞ | |
|---------------------|------------------|
| 当ファンド | 1.08%（税抜1%） |
| 投資対象とする投資信託証券 | 0.71%程度 |
| 実質的負担 | 1.79%（税抜1.71%）程度 |

- ・当ファンドの信託報酬は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に対し年1.08%（税抜1%）の率を乗じて得た額とします。

- ・投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率（年率）0.71%程度 がかかり、受益者が実質的に負担する信託報酬率（年率）は1.79%（税抜1.71%）程度となります。

投資対象とする投資信託証券の信託報酬の詳細については、「第1 ファンドの状況 - 2 投資方針 - (2) 投資対象」 - 「投資対象とする投資信託証券の概要」をご覧ください。

- * 受益者が実質的に負担する信託報酬率（年率）は、投資対象とする投資信託証券の組入比率などにより変動します。

信託報酬の配分

当ファンドの信託報酬の配分（年率）は、以下の通りとします。

| 信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率 | | | |
|---------------------------|-------|-------|-------|
| 合計 | 委託会社 | 販売会社 | 受託会社 |
| 1.00% | 0.17% | 0.80% | 0.03% |

| | |
|------|---|
| 委託会社 | 委託した資金の運用の対価 |
| 販売会社 | 運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価 |
| 受託会社 | 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価 |

表中の率は税抜です。別途消費税がかかります。

支払時期

信託報酬（信託報酬に係る消費税等相当額を含みます。）は、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払います。

（４）【その他の手数料等】

以下の諸費用およびそれに付随する消費税等相当額について、委託会社は、その支払いをファンドのために行ない、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限として、支払金額の支弁を信託財産から受けることができます。（以下「実費方式」といいます。）また、実際に支払う金額の支弁を受ける代わりに、その金額をあらかじめ合理的に見積もった上で、見積額に基づいて見積率を算出し、かかる見積率を信託財産の純資産総額に乗じて得た額をかかるとする諸費用の合計額とみなして、信託財産から支弁を受けることができます。（以下「見積方式」といいます。）ただし、委託会社は、信託財産の規模などを考慮して、信託の設定時または期中に、かかる諸費用の見積率を見直し、年率0.1%を上限として、これを変更することができます。委託会社は、実費方式または見積方式のいずれを用いるかについて、信託期間を通じて随時、見直すことができます。これら諸費用は、委託会社が定めた時期に、信託財産から支払います。

振替受益権に係る費用ならびにやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合における発行および管理事務に係る費用。

有価証券届出書、有価証券報告書および臨時報告書（これらの訂正に係る書類を含みます。）の作成、印刷および提出に係る費用。

目論見書および仮目論見書（これらの訂正事項分を含みます。）の作成、印刷および交付に係る費用（これらを監督官庁に提出する場合の提出費用も含みます。）。

信託約款の作成、印刷および交付に係る費用（これを監督官庁に提出する場合の提出費用も含みます。）。

運用報告書の作成、印刷および交付に係る費用（これを監督官庁に提出する場合の提出費用も含みます。）。

ファンドの受益者に対して行なう公告に係る費用ならびに信託約款の変更または信託契約の解約に係る事項を記載した書面の作成、印刷および交付に係る費用。

格付の取得に要する費用。

ファンドの監査人、法律顧問および税務顧問に対する報酬および費用。

信託財産に関する以下の費用およびそれに付随する消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産から支払います。

組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、外貨建資産の保管などに要する費用、解約に伴う支払資金の手当てなどを目的とした借入金の利息および受託会社の立て替えた立替金の利息。

< 投資対象とする投資信託証券に係る費用 >

「ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス」
「ナチュラル・リソース・ファンド 南アフリカランド・クラス」
「ナチュラル・リソース・ファンド オーストラリアドル・クラス」

- ・事務管理費用
- ・資産の保管費用
- ・有価証券売買時の売買委託手数料
- ・設立に係る費用
- ・法律顧問費用
- ・監査費用
- ・信託財産に関する租税 など

「マネー・アカウント・マザーファンド」

- ・組入る有価証券の売買時の売買委託手数料

- ・信託事務の処理に要する諸費用
- ・信託財産に関する租税 など

監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用です。

* 売買委託手数料などは、保有期間や運用の状況などに依りて異なり、あらかじめ見積もることができないため、表示することができません。

投資家の皆様にご負担いただく手数料などの合計額については、保有期間や運用の状況などに依りて異なりますので、表示することができません。

(5) 【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

個人受益者の場合

1) 収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については配当所得として、20.315% (所得税15.315%および地方税5%)の税率による源泉徴収(原則として、確定申告は不要です。)が行なわれます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税(配当控除の適用はありません。)のいずれかを選択することもできます。

2) 解約金および償還金に対する課税

解約時および償還時の差益(譲渡益)^{*}については譲渡所得として、20.315% (所得税15.315%および地方税5%)の税率による申告分離課税の対象となり、確定申告が必要となります。なお、源泉徴収ありの特定口座(源泉徴収選択口座)を選択している場合は、20.315% (所得税15.315%および地方税5%)の税率による源泉徴収(原則として、確定申告は不要です。)が行なわれます。

* 解約価額および償還価額から取得費用(申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額を含みません。)を控除した利益

確定申告等により、解約時および償還時の差損(譲渡損失)については、上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当等(申告分離課税を選択したものに限りません。)と損益通算が可能です。また、解約時および償還時の差益(譲渡益)および普通分配金(申告分離課税を選択したものに限りません。)については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」をご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人受益者の場合

1) 収益分配金、解約金、償還金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として、15.315%(所得税のみ)の税率による源泉徴収が行なわれます。源泉徴収された税金は、所有期間に依りて法人税から控除される場合があります。

2) 益金不算入制度の適用

益金不算入制度は適用されません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

個別元本

1) 各受益者の買付時の基準価額(申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額は含まれません。)が個別元本になります。

2) 受益者が同一ファンドを複数回お申込みの場合、1口当たりの個別元本は、申込口数で加重平均した値となります。ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

普通分配金と元本払戻金(特別分配金)

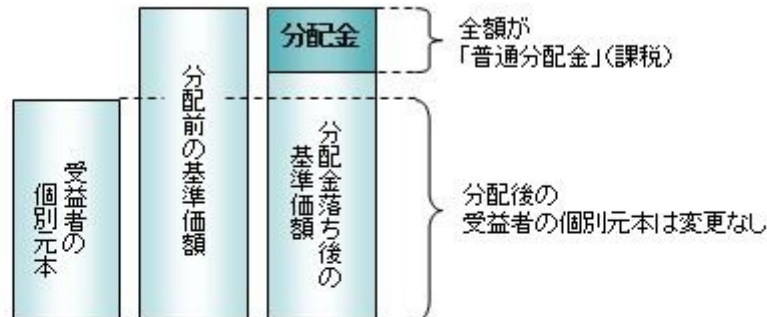
1) 収益分配金には課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

2) 受益者が収益分配金を受け取る際

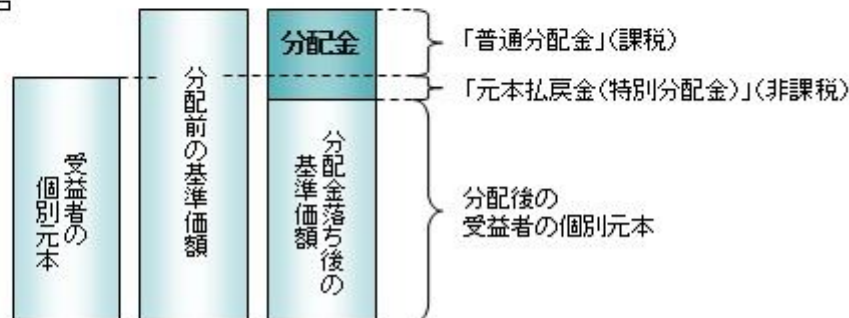
- イ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本と同額かまたは上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。
- ロ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本を下回っている場合には、収益分配金の範囲内でその下回っている部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、収益分配金から元本払戻金(特別分配金)を控除した金額が普通分配金となります。
- ハ) 収益分配金発生時に、その個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。

<分配金に関するイメージ図>

イ) の場合



ロ)、ハ) の場合



上記は平成27年 3月17日現在のものですので、税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家などにご確認されることをお勧めします。

5 【運用状況】

【資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース>（毎月分配型）】

以下の運用状況は2014年12月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1) 【投資状況】

| 資産の種類 | 国・地域 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|-----------------------|------|----------------|---------|
| 投資信託受益証券 | ケイマン | 31,581,012,767 | 99.20 |
| 親投資信託受益証券 | 日本 | 34,358,867 | 0.11 |
| コール・ローン等、その他資産(負債控除後) | | 221,844,325 | 0.70 |
| 合計(純資産総額) | | 31,837,215,959 | 100.00 |

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

| 国・地域 | 種類 | 銘柄名 | 数量又は 額面総額 | 簿価 単価 (円) | 簿価 金額 (円) | 評価 単価 (円) | 評価 金額 (円) | 投資 比率 (%) |
|------|-----------|-----------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ケイマン | 投資信託受益証券 | ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス | 104,124,671,177 | 0.26 | 27,831,842,900 | 0.3 | 31,581,012,767 | 99.20 |
| 日本 | 親投資信託受益証券 | マネー・アカウント・マザーファンド | 34,215,164 | 1.0042 | 34,358,867 | 1.0042 | 34,358,867 | 0.11 |

ロ. 種類別の投資比率

| 種類 | 投資比率(%) |
|-----------|---------|
| 投資信託受益証券 | 99.20 |
| 親投資信託受益証券 | 0.11 |
| 合計 | 99.30 |

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

| 期別 | 純資産総額(百万円) | | 1口当たり純資産額(円) | |
|------------------------|------------|--------|--------------|--------|
| | 分配落ち | 分配付き | 分配落ち | 分配付き |
| 第1特定期間末 (2009年12月17日) | 1,214 | 1,225 | 1.0007 | 1.0097 |
| 第2特定期間末 (2010年6月17日) | 8,388 | 8,473 | 0.8937 | 0.9027 |
| 第3特定期間末 (2010年12月17日) | 14,720 | 14,851 | 1.0151 | 1.0241 |
| 第4特定期間末 (2011年6月17日) | 27,727 | 27,998 | 1.0197 | 1.0297 |
| 第5特定期間末 (2011年12月19日) | 24,314 | 24,671 | 0.6800 | 0.6900 |
| 第6特定期間末 (2012年6月18日) | 31,408 | 31,974 | 0.5551 | 0.5651 |
| 第7特定期間末 (2012年12月17日) | 39,200 | 39,893 | 0.5652 | 0.5752 |
| 第8特定期間末 (2013年6月17日) | 47,169 | 48,014 | 0.5586 | 0.5686 |
| 第9特定期間末 (2013年12月17日) | 37,705 | 38,404 | 0.5399 | 0.5499 |
| 第10特定期間末 (2014年6月17日) | 35,230 | 35,844 | 0.5734 | 0.5834 |
| 第11特定期間末 (2014年12月17日) | 27,316 | 28,038 | 0.3785 | 0.3885 |
| 2013年12月末日 | 39,094 | | 0.5658 | |

| | | | |
|------------|--------|--|--------|
| 2014年 1月末日 | 34,842 | | 0.5085 |
| 2月末日 | 36,663 | | 0.5412 |
| 3月末日 | 37,271 | | 0.5611 |
| 4月末日 | 36,823 | | 0.5821 |
| 5月末日 | 35,847 | | 0.5744 |
| 6月末日 | 36,128 | | 0.5927 |
| 7月末日 | 35,846 | | 0.5851 |
| 8月末日 | 36,170 | | 0.5778 |
| 9月末日 | 32,398 | | 0.5129 |
| 10月末日 | 31,098 | | 0.4751 |
| 11月末日 | 34,333 | | 0.4932 |
| 12月末日 | 31,837 | | 0.4302 |

(注)分配付きの金額は、特定期間末の金額に当該特定期間末の分配金を加算した金額です。

【分配の推移】

| 期 | 期間 | 1口当たりの分配金（円） |
|---------|-------------------------|--------------|
| 第1特定期間 | 2009年11月20日～2009年12月17日 | 0.0090 |
| 第2特定期間 | 2009年12月18日～2010年 6月17日 | 0.0540 |
| 第3特定期間 | 2010年 6月18日～2010年12月17日 | 0.0540 |
| 第4特定期間 | 2010年12月18日～2011年 6月17日 | 0.0590 |
| 第5特定期間 | 2011年 6月18日～2011年12月19日 | 0.0600 |
| 第6特定期間 | 2011年12月20日～2012年 6月18日 | 0.0600 |
| 第7特定期間 | 2012年 6月19日～2012年12月17日 | 0.0600 |
| 第8特定期間 | 2012年12月18日～2013年 6月17日 | 0.0600 |
| 第9特定期間 | 2013年 6月18日～2013年12月17日 | 0.0600 |
| 第10特定期間 | 2013年12月18日～2014年 6月17日 | 0.0600 |
| 第11特定期間 | 2014年 6月18日～2014年12月17日 | 0.0600 |

【収益率の推移】

| 期 | 期間 | 収益率（%） |
|--------|-------------------------|--------|
| 第1特定期間 | 2009年11月20日～2009年12月17日 | 0.97 |
| 第2特定期間 | 2009年12月18日～2010年 6月17日 | 5.30 |
| 第3特定期間 | 2010年 6月18日～2010年12月17日 | 19.63 |
| 第4特定期間 | 2010年12月18日～2011年 6月17日 | 6.27 |
| 第5特定期間 | 2011年 6月18日～2011年12月19日 | 27.43 |
| 第6特定期間 | 2011年12月20日～2012年 6月18日 | 9.54 |
| 第7特定期間 | 2012年 6月19日～2012年12月17日 | 12.63 |
| 第8特定期間 | 2012年12月18日～2013年 6月17日 | 9.45 |
| 第9特定期間 | 2013年 6月18日～2013年12月17日 | 7.39 |

| | | |
|---------|-------------------------|-------|
| 第10特定期間 | 2013年12月18日～2014年 6月17日 | 17.32 |
| 第11特定期間 | 2014年 6月18日～2014年12月17日 | 23.53 |

(注)各特定期間の収益率は、特定期間末の基準価額(分配落ち)に当該特定期間の分配金を加算し、当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額(分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

(4)【設定及び解約の実績】

| 期 | 期間 | 設定口数(口) | 解約口数(口) |
|---------|-------------------------|----------------|----------------|
| 第1特定期間 | 2009年11月20日～2009年12月17日 | 1,213,389,236 | 0 |
| 第2特定期間 | 2009年12月18日～2010年 6月17日 | 8,339,066,317 | 165,587,236 |
| 第3特定期間 | 2010年 6月18日～2010年12月17日 | 7,618,272,087 | 2,502,874,183 |
| 第4特定期間 | 2010年12月18日～2011年 6月17日 | 20,487,824,845 | 7,797,659,942 |
| 第5特定期間 | 2011年 6月18日～2011年12月19日 | 12,947,337,323 | 4,383,588,588 |
| 第6特定期間 | 2011年12月20日～2012年 6月18日 | 25,893,443,133 | 5,070,588,652 |
| 第7特定期間 | 2012年 6月19日～2012年12月17日 | 21,264,471,296 | 8,487,860,197 |
| 第8特定期間 | 2012年12月18日～2013年 6月17日 | 48,539,682,624 | 33,457,352,292 |
| 第9特定期間 | 2013年 6月18日～2013年12月17日 | 12,423,288,804 | 27,019,826,277 |
| 第10特定期間 | 2013年12月18日～2014年 6月17日 | 9,866,857,102 | 18,266,206,110 |
| 第11特定期間 | 2014年 6月18日～2014年12月17日 | 25,162,761,411 | 14,435,035,937 |

(注)第1特定期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

【資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>(毎月分配型)】

以下の運用状況は2014年12月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1)【投資状況】

| 資産の種類 | 国・地域 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|-----------------------|------|-------------|---------|
| 投資信託受益証券 | ケイマン | 521,421,654 | 97.03 |
| 親投資信託受益証券 | 日本 | 504,328 | 0.09 |
| コール・ローン等、その他資産(負債控除後) | | 15,467,734 | 2.88 |
| 合計(純資産総額) | | 537,393,716 | 100.00 |

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ.評価額上位銘柄明細

| 国・地域 | 種類 | 銘柄名 | 数量又は 額面総額 | 簿価 単価 (円) | 簿価 金額 (円) | 評価 単価 (円) | 評価 金額 (円) | 投資 比率 (%) |
|------|----|-----|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
|------|----|-----|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|

| | | | | | | | | |
|------|-----------|------------------------------|---------------|--------|-------------|--------|-------------|-------|
| ケイマン | 投資信託受益証券 | ナチュラル・リソース・ファンド 南アフリカランド・クラス | 1,859,563,674 | 0.24 | 464,385,117 | 0.28 | 521,421,654 | 97.03 |
| 日本 | 親投資信託受益証券 | マネー・アカウント・マザーファンド | 502,219 | 1.0042 | 504,329 | 1.0042 | 504,328 | 0.09 |

ロ.種類別の投資比率

| 種類 | 投資比率(%) |
|-----------|---------|
| 投資信託受益証券 | 97.03 |
| 親投資信託受益証券 | 0.09 |
| 合計 | 97.12 |

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

| 期別 | 純資産総額(百万円) | | 1口当たり純資産額(円) | |
|------------------------|------------|-------|--------------|--------|
| | 分配落ち | 分配付き | 分配落ち | 分配付き |
| 第1特定期間末 (2009年12月17日) | 86 | 87 | 1.0253 | 1.0323 |
| 第2特定期間末 (2010年 6月17日) | 411 | 414 | 0.9415 | 0.9485 |
| 第3特定期間末 (2010年12月17日) | 604 | 607 | 1.1385 | 1.1455 |
| 第4特定期間末 (2011年 6月17日) | 1,617 | 1,628 | 1.0936 | 1.1006 |
| 第5特定期間末 (2011年12月19日) | 1,100 | 1,111 | 0.6945 | 0.7015 |
| 第6特定期間末 (2012年 6月18日) | 1,217 | 1,231 | 0.6306 | 0.6376 |
| 第7特定期間末 (2012年12月17日) | 1,151 | 1,163 | 0.6519 | 0.6589 |
| 第8特定期間末 (2013年 6月17日) | 937 | 948 | 0.6001 | 0.6071 |
| 第9特定期間末 (2013年12月17日) | 716 | 724 | 0.6233 | 0.6303 |
| 第10特定期間末 (2014年 6月17日) | 596 | 602 | 0.6224 | 0.6294 |
| 第11特定期間末 (2014年12月17日) | 478 | 485 | 0.4799 | 0.4869 |
| 2013年12月末日 | 729 | | 0.6519 | |
| 2014年 1月末日 | 631 | | 0.5677 | |
| 2月末日 | 666 | | 0.6091 | |
| 3月末日 | 642 | | 0.6207 | |
| 4月末日 | 637 | | 0.6386 | |
| 5月末日 | 621 | | 0.6379 | |
| 6月末日 | 630 | | 0.6395 | |

| | | |
|-------|-----|--------|
| 7月末日 | 635 | 0.6431 |
| 8月末日 | 645 | 0.6410 |
| 9月末日 | 590 | 0.5870 |
| 10月末日 | 562 | 0.5573 |
| 11月末日 | 601 | 0.6016 |
| 12月末日 | 537 | 0.5369 |

(注)分配付きの金額は、特定期間末の金額に当該特定期間末の分配金を加算した金額です。

【分配の推移】

| 期 | 期間 | 1口当たりの分配金（円） |
|---------|-------------------------|--------------|
| 第1特定期間 | 2009年11月20日～2009年12月17日 | 0.0070 |
| 第2特定期間 | 2009年12月18日～2010年6月17日 | 0.0420 |
| 第3特定期間 | 2010年6月18日～2010年12月17日 | 0.0420 |
| 第4特定期間 | 2010年12月18日～2011年6月17日 | 0.0420 |
| 第5特定期間 | 2011年6月18日～2011年12月19日 | 0.0420 |
| 第6特定期間 | 2011年12月20日～2012年6月18日 | 0.0420 |
| 第7特定期間 | 2012年6月19日～2012年12月17日 | 0.0420 |
| 第8特定期間 | 2012年12月18日～2013年6月17日 | 0.0420 |
| 第9特定期間 | 2013年6月18日～2013年12月17日 | 0.0420 |
| 第10特定期間 | 2013年12月18日～2014年6月17日 | 0.0420 |
| 第11特定期間 | 2014年6月18日～2014年12月17日 | 0.0420 |

【収益率の推移】

| 期 | 期間 | 収益率（％） |
|---------|-------------------------|--------|
| 第1特定期間 | 2009年11月20日～2009年12月17日 | 3.23 |
| 第2特定期間 | 2009年12月18日～2010年6月17日 | 4.08 |
| 第3特定期間 | 2010年6月18日～2010年12月17日 | 25.39 |
| 第4特定期間 | 2010年12月18日～2011年6月17日 | 0.25 |
| 第5特定期間 | 2011年6月18日～2011年12月19日 | 32.65 |
| 第6特定期間 | 2011年12月20日～2012年6月18日 | 3.15 |
| 第7特定期間 | 2012年6月19日～2012年12月17日 | 10.04 |
| 第8特定期間 | 2012年12月18日～2013年6月17日 | 1.50 |
| 第9特定期間 | 2013年6月18日～2013年12月17日 | 10.86 |
| 第10特定期間 | 2013年12月18日～2014年6月17日 | 6.59 |
| 第11特定期間 | 2014年6月18日～2014年12月17日 | 16.15 |

(注)各特定期間の収益率は、特定期間末の基準価額（分配落ち）に当該特定期間の分配金を加算し、当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

（４）【設定及び解約の実績】

| 期 | 期間 | 設定口数（口） | 解約口数（口） |
|---------|-------------------------|---------------|-------------|
| 第1特定期間 | 2009年11月20日～2009年12月17日 | 84,563,416 | 0 |
| 第2特定期間 | 2009年12月18日～2010年6月17日 | 355,208,139 | 2,315,705 |
| 第3特定期間 | 2010年6月18日～2010年12月17日 | 225,384,924 | 132,256,269 |
| 第4特定期間 | 2010年12月18日～2011年6月17日 | 1,364,957,620 | 416,058,839 |
| 第5特定期間 | 2011年6月18日～2011年12月19日 | 439,747,565 | 334,945,376 |
| 第6特定期間 | 2011年12月20日～2012年6月18日 | 558,149,422 | 211,473,978 |
| 第7特定期間 | 2012年6月19日～2012年12月17日 | 198,936,903 | 363,907,103 |
| 第8特定期間 | 2012年12月18日～2013年6月17日 | 441,872,427 | 645,439,759 |
| 第9特定期間 | 2013年6月18日～2013年12月17日 | 72,801,085 | 485,523,891 |
| 第10特定期間 | 2013年12月18日～2014年6月17日 | 82,254,625 | 274,158,285 |
| 第11特定期間 | 2014年6月18日～2014年12月17日 | 212,817,995 | 173,412,190 |

(注)第1特定期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

【資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース>（毎月分配型）】

以下の運用状況は2014年12月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

（１）【投資状況】

| 資産の種類 | 国・地域 | 時価合計（円） | 投資比率（％） |
|-----------------------|------|---------------|---------|
| 投資信託受益証券 | ケイマン | 2,377,860,644 | 97.07 |
| 親投資信託受益証券 | 日本 | 2,427,195 | 0.10 |
| コール・ローン等、その他資産（負債控除後） | | 69,414,883 | 2.83 |
| 合計（純資産総額） | | 2,449,702,722 | 100.00 |

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

| 国・地域 | 種類 | 銘柄名 | 数量又は 額面総額 | 簿価 単価 （円） | 簿価 金額 （円） | 評価 単価 （円） | 評価 金額 （円） | 投資 比率 （％） |
|------|-----------|----------------------------------|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ケイマン | 投資信託受益証券 | ナチュラル・リソース・ファンド オーストラリアドル・クラス | 4,299,151,410 | 0.5 | 2,183,841,949 | 0.55 | 2,377,860,644 | 97.07 |
| 日本 | 親投資信託受益証券 | マネー・アカウント・マザーファンド | 2,417,044 | 1.0041 | 2,427,194 | 1.0042 | 2,427,195 | 0.10 |

ロ. 種類別の投資比率

| 種類 | 投資比率(%) |
|-----------|---------|
| 投資信託受益証券 | 97.07 |
| 親投資信託受益証券 | 0.10 |
| 合 計 | 97.17 |

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

| 期別 | 純資産総額（百万円） | | 1口当たり純資産額(円) | |
|------------------------|------------|-------|--------------|--------|
| | 分配落ち | 分配付き | 分配落ち | 分配付き |
| 第1特定期間末 (2009年12月17日) | 74 | 74 | 0.9926 | 0.9966 |
| 第2特定期間末 (2010年 6月17日) | 368 | 370 | 0.8915 | 0.8955 |
| 第3特定期間末 (2010年12月17日) | 535 | 537 | 1.1167 | 1.1207 |
| 第4特定期間末 (2011年 6月17日) | 2,277 | 2,289 | 1.1342 | 1.1402 |
| 第5特定期間末 (2011年12月19日) | 2,465 | 2,482 | 0.8454 | 0.8514 |
| 第6特定期間末 (2012年 6月18日) | 4,415 | 4,449 | 0.7914 | 0.7974 |
| 第7特定期間末 (2012年12月17日) | 5,961 | 6,001 | 0.9032 | 0.9092 |
| 第8特定期間末 (2013年 6月17日) | 3,119 | 3,140 | 0.8758 | 0.8818 |
| 第9特定期間末 (2013年12月17日) | 2,332 | 2,347 | 0.8959 | 0.9019 |
| 第10特定期間末 (2014年 6月17日) | 1,978 | 1,990 | 0.9935 | 0.9995 |
| 第11特定期間末 (2014年12月17日) | 1,889 | 1,905 | 0.7443 | 0.7503 |
| 2013年12月末日 | 2,444 | | 0.9426 | |
| 2014年 1月末日 | 2,220 | | 0.8634 | |
| 2月末日 | 2,319 | | 0.9153 | |
| 3月末日 | 2,260 | | 0.9531 | |
| 4月末日 | 2,191 | | 0.9817 | |
| 5月末日 | 2,043 | | 0.9725 | |
| 6月末日 | 1,993 | | 1.0115 | |
| 7月末日 | 2,233 | | 1.0149 | |
| 8月末日 | 2,242 | | 1.0131 | |
| 9月末日 | 2,106 | | 0.9194 | |
| 10月末日 | 1,975 | | 0.8550 | |
| 11月末日 | 2,253 | | 0.9022 | |

| | | | |
|-------|-------|--|--------|
| 12月末日 | 2,449 | | 0.8161 |
|-------|-------|--|--------|

(注)分配付きの金額は、特定期間末の金額に当該特定期間末の分配金を加算した金額です。

【分配の推移】

| 期 | 期間 | 1口当たりの分配金（円） |
|---------|-------------------------|--------------|
| 第1特定期間 | 2009年11月20日～2009年12月17日 | 0.0040 |
| 第2特定期間 | 2009年12月18日～2010年6月17日 | 0.0240 |
| 第3特定期間 | 2010年6月18日～2010年12月17日 | 0.0240 |
| 第4特定期間 | 2010年12月18日～2011年6月17日 | 0.0340 |
| 第5特定期間 | 2011年6月18日～2011年12月19日 | 0.0360 |
| 第6特定期間 | 2011年12月20日～2012年6月18日 | 0.0360 |
| 第7特定期間 | 2012年6月19日～2012年12月17日 | 0.0360 |
| 第8特定期間 | 2012年12月18日～2013年6月17日 | 0.0360 |
| 第9特定期間 | 2013年6月18日～2013年12月17日 | 0.0360 |
| 第10特定期間 | 2013年12月18日～2014年6月17日 | 0.0360 |
| 第11特定期間 | 2014年6月18日～2014年12月17日 | 0.0360 |

【収益率の推移】

| 期 | 期間 | 収益率（％） |
|---------|-------------------------|--------|
| 第1特定期間 | 2009年11月20日～2009年12月17日 | 0.34 |
| 第2特定期間 | 2009年12月18日～2010年6月17日 | 7.77 |
| 第3特定期間 | 2010年6月18日～2010年12月17日 | 27.95 |
| 第4特定期間 | 2010年12月18日～2011年6月17日 | 4.61 |
| 第5特定期間 | 2011年6月18日～2011年12月19日 | 22.29 |
| 第6特定期間 | 2011年12月20日～2012年6月18日 | 2.13 |
| 第7特定期間 | 2012年6月19日～2012年12月17日 | 18.68 |
| 第8特定期間 | 2012年12月18日～2013年6月17日 | 0.95 |
| 第9特定期間 | 2013年6月18日～2013年12月17日 | 6.41 |
| 第10特定期間 | 2013年12月18日～2014年6月17日 | 14.91 |
| 第11特定期間 | 2014年6月18日～2014年12月17日 | 21.46 |

(注)各特定期間の収益率は、特定期間末の基準価額（分配落ち）に当該特定期間の分配金を加算し、当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

（４）【設定及び解約の実績】

| 期 | 期間 | 設定口数（口） | 解約口数（口） |
|--------|-------------------------|-------------|------------|
| 第1特定期間 | 2009年11月20日～2009年12月17日 | 75,257,189 | 0 |
| 第2特定期間 | 2009年12月18日～2010年6月17日 | 350,426,310 | 12,294,566 |

| | | | |
|---------|---------------------------|---------------|---------------|
| 第3特定期間 | 2010年 6月18日 ~ 2010年12月17日 | 281,306,989 | 214,973,588 |
| 第4特定期間 | 2010年12月18日 ~ 2011年 6月17日 | 1,852,932,085 | 324,205,239 |
| 第5特定期間 | 2011年 6月18日 ~ 2011年12月19日 | 1,506,038,839 | 598,147,990 |
| 第6特定期間 | 2011年12月20日 ~ 2012年 6月18日 | 3,580,186,869 | 916,619,885 |
| 第7特定期間 | 2012年 6月19日 ~ 2012年12月17日 | 2,710,873,049 | 1,689,536,221 |
| 第8特定期間 | 2012年12月18日 ~ 2013年 6月17日 | 997,288,437 | 4,037,065,670 |
| 第9特定期間 | 2013年 6月18日 ~ 2013年12月17日 | 265,665,972 | 1,224,248,390 |
| 第10特定期間 | 2013年12月18日 ~ 2014年 6月17日 | 145,798,906 | 757,066,409 |
| 第11特定期間 | 2014年 6月18日 ~ 2014年12月17日 | 926,792,052 | 379,197,141 |

(注)第1特定期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

参考情報

運用実績(ブラジルリアル・コース)

2014年12月30日現在

基準価額・純資産の推移



基準価額……………4,302円

純資産総額……………318.37億円

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。

※分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。

分配の推移(税引前、1万口当たり)

| 2014年8月 | 2014年9月 | 2014年10月 | 2014年11月 | 2014年12月 | 直近1年間累計 | 設定来累計 |
|---------|---------|----------|----------|----------|---------|--------|
| 100円 | 100円 | 100円 | 100円 | 100円 | 1,200円 | 5,960円 |

主要な資産の状況

資産構成比率

| 組入資産 | 比率 |
|--------------------------------|-------|
| ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス | 99.2% |
| マネー・アカウント・マザーファンド | 0.1% |
| 現金・その他 | 0.7% |

<株式組入上位5か国>

| 国名 | 比率 |
|--------|-------|
| 1 アメリカ | 58.6% |
| 2 イギリス | 16.8% |
| 3 カナダ | 11.7% |
| 4 フランス | 3.0% |
| 5 中国 | 1.9% |

※比率は当外国投資信託の組入株式時価総額比です。

ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラスのポートフォリオの内容

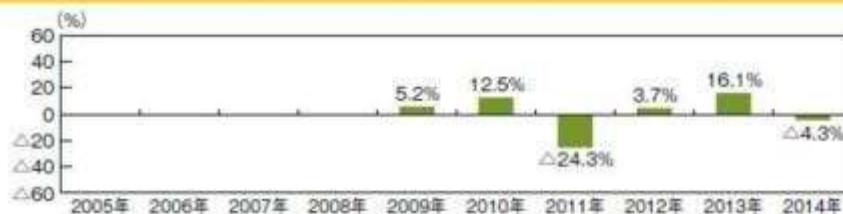
<株式組入上位10銘柄> (銘柄数:73銘柄)

| 銘柄名 | 国名 | 業種 | 比率 |
|--|------|-------|-------|
| 1 BHP Billiton PLC BHPビルドン | イギリス | 素材 | 5.01% |
| 2 Monsanto Co モンサント | アメリカ | 素材 | 4.30% |
| 3 Exxon Mobil Corp エクソンモービル | アメリカ | エネルギー | 4.04% |
| 4 Chevron Corp シェブロン | アメリカ | エネルギー | 3.87% |
| 5 Potash Corp of Saskatchewan Inc ポタッシュコーポレーションオナサスカチワン | カナダ | 素材 | 3.80% |
| 6 Rio Tinto PLC リオティント | イギリス | 素材 | 3.78% |
| 7 Archer-Daniels-Midland Co アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド | アメリカ | 農業・食料 | 3.57% |
| 8 International Paper Co インターナショナルペーパー | アメリカ | 素材 | 3.20% |
| 9 Freeport-McMoRan Inc フリーポートマクモラン | アメリカ | 素材 | 3.05% |
| 10 Total SA トタル | フランス | エネルギー | 2.97% |

※比率は当外国投資信託の組入株式時価総額比です。

※上記は、日興アセットマネジメント・アメリカズ・インクより提供された情報です。

年間収益率の推移



※ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。

※当ファンドには、ベンチマークはありません。

※2009年は、設定時から2009年末までの騰落率です。

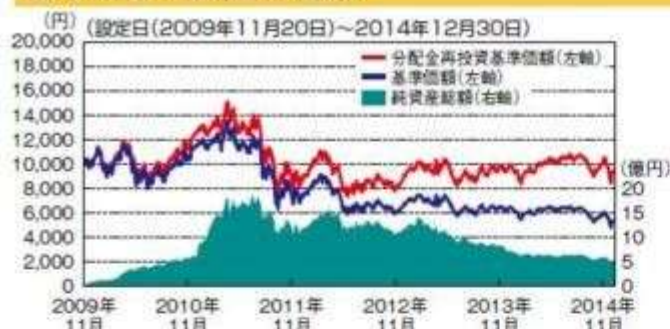
※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示しています。

運用実績(南アフリカランド・コース)

2014年12月30日現在

基準価額・純資産の推移



基準価額……………5,369円

純資産総額……………5.37億円

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。

※分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。

分配の推移(税引前、1万口当たり)

| 2014年8月 | 2014年9月 | 2014年10月 | 2014年11月 | 2014年12月 | 直近1年間累計 | 設定来累計 |
|---------|---------|----------|----------|----------|---------|--------|
| 70円 | 70円 | 70円 | 70円 | 70円 | 840円 | 4,270円 |

主要な資産の状況

資産構成比率

| 組入資産 | 比率 |
|---------------------------------|-------|
| ナチュラル・リソース・ファンド 南アフリカランド・クラス | 97.0% |
| マネー・アカウント・マザーファンド | 0.1% |
| 現金・その他 | 2.9% |

<株式組入上位5カ国>

| | 国名 | 比率 |
|---|------|-------|
| 1 | アメリカ | 58.6% |
| 2 | イギリス | 16.8% |
| 3 | カナダ | 11.7% |
| 4 | フランス | 3.0% |
| 5 | 中国 | 1.9% |

※比率は当外国投資信託の組入株式時価総額比です。

ナチュラル・リソース・ファンド 南アフリカランド・クラスのポートフォリオの内容

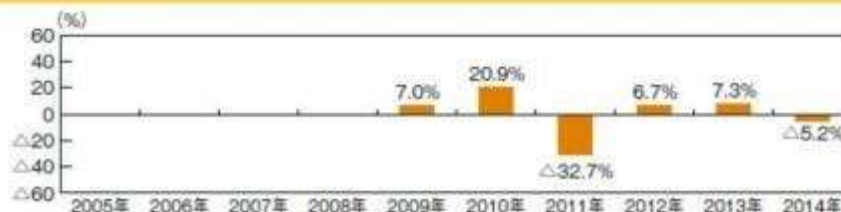
<株式組入上位10銘柄> (銘柄数:73銘柄)

| | 銘柄名 | 国名 | 業種 | 比率 |
|----|--|------|-------|-------|
| 1 | BHP Billiton PLC BHPビルिटン | イギリス | 素材 | 5.01% |
| 2 | Monsanto Co モンサント | アメリカ | 素材 | 4.30% |
| 3 | Exxon Mobil Corp エクソンモービル | アメリカ | エネルギー | 4.04% |
| 4 | Chevron Corp シェブロン | アメリカ | エネルギー | 3.87% |
| 5 | Potash Corp of Saskatchewan Inc ポタシュ・コーポレーション・オブ・サスカチワン | カナダ | 素材 | 3.80% |
| 6 | Rio Tinto PLC リオティント | イギリス | 素材 | 3.78% |
| 7 | Archer-Daniels-Midland Co アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド | アメリカ | 農業・食料 | 3.57% |
| 8 | International Paper Co インターナショナルペーパー | アメリカ | 素材 | 3.20% |
| 9 | Freeport-McMoRan Inc フリーポート・マクモラン | アメリカ | 素材 | 3.05% |
| 10 | Total SA トタル | フランス | エネルギー | 2.97% |

※比率は当外国投資信託の組入株式時価総額比です。

※上記は、日興アセットマネジメント・アメリカズ・インクより提供された情報です。

年間収益率の推移



※ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。

※当ファンドには、ベンチマークはありません。

※2009年は、設定時から2009年末までの騰落率です。

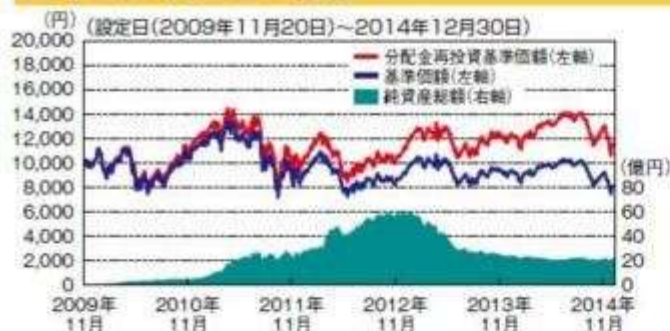
※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示しています。

運用実績(オーストラリアドル・コース)

2014年12月30日現在

基準価額・純資産の推移



基準価額..... 8,161円
純資産総額..... 24.49億円

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。

※分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算した理論上のものであることにご留意ください。

分配の推移(税引前、1万口当たり)

| 2014年8月 | 2014年9月 | 2014年10月 | 2014年11月 | 2014年12月 | 直近1年間累計 | 設定来累計 |
|---------|---------|----------|----------|----------|---------|--------|
| 60円 | 60円 | 60円 | 60円 | 60円 | 720円 | 3,380円 |

主要な資産の状況

資産構成比率

| 組入資産 | 比率 |
|----------------------------------|-------|
| ナチュラル・リソース・ファンド オーストラリアドル・クラス | 97.1% |
| マネー・アカウント・マザーファンド | 0.1% |
| 現金・その他 | 2.8% |

<株式組入上位5カ国>

| 国名 | 比率 |
|--------|-------|
| 1 アメリカ | 59.6% |
| 2 イギリス | 16.8% |
| 3 カナダ | 11.7% |
| 4 フランス | 3.0% |
| 5 中国 | 1.9% |

※比率は当外国投資信託の組入株式時価総額比です。

ナチュラル・リソース・ファンド オーストラリアドル・クラスのポートフォリオの内容

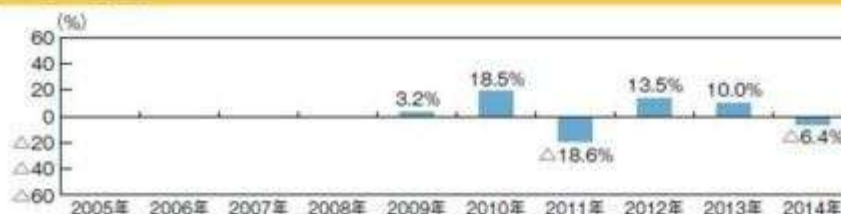
<株式組入上位10銘柄> (銘柄数:73銘柄)

| | 銘柄名 | 国名 | 業種 | 比率 |
|----|---|------|-------|-------|
| 1 | BHP Billiton PLC BHPビルリトン | イギリス | 素材 | 5.01% |
| 2 | Monsanto Co モンサント | アメリカ | 素材 | 4.30% |
| 3 | Exxon Mobil Corp エクソンモービル | アメリカ | エネルギー | 4.04% |
| 4 | Chevron Corp シェブロン | アメリカ | エネルギー | 3.87% |
| 5 | Potash Corp of Saskatchewan In ポタッシュコーポレーションオナサスカチワン | カナダ | 素材 | 3.80% |
| 6 | Rio Tinto PLC リオティント | イギリス | 素材 | 3.78% |
| 7 | Archer-Daniels-Midland Co アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド | アメリカ | 農業・食料 | 3.57% |
| 8 | International Paper Co インターナショナルペーパー | アメリカ | 素材 | 3.20% |
| 9 | Freeport-McMoRan Inc フリーポート・マクモラン | アメリカ | 素材 | 3.05% |
| 10 | Total SA トタル | フランス | エネルギー | 2.97% |

※比率は当外国投資信託の組入株式時価総額比です。

※上記は、日興アセットマネジメント アメリカズ・インクより提供された情報です。

年間収益率の推移



※ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しております。

※当ファンドには、ベンチマークはありません。

※2009年は、設定時から2009年末までの騰落率です。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示しています。

第2【管理及び運営】

1【申込(販売)手続等】

(1) 申込方法

販売会社所定の方法でお申し込みください。

(2) コースの選択

収益分配金の受取方法によって、＜分配金再投資コース＞と＜分配金受取りコース＞の2通りがあります。ただし、販売会社によって取扱コースは異なります。

＜分配金再投資コース＞

収益分配金を自動的に再投資するコースです。

＜分配金受取りコース＞

収益分配金を再投資せず、その都度受け取るコースです。

(3) スイッチング

・スイッチングとは、保有しているファンドを売却し、その売却代金をもって他のファンドを取得することで、売却するファンドと取得するファンドを同時に申込みいただきます。

・申込みの際に、スイッチングの旨をご指示ください。

・以下のファンド間でスイッチングを行なうことができます。

資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜ブラジルリアル・コース＞（毎月分配型）

資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜南アフリカランド・コース＞（毎月分配型）

資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜オーストラリアドル・コース＞（毎月分配型）

資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜米ドル・コース＞（毎月分配型）

販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行えない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

スイッチング対象ファンドの一方のファンドに関して、委託会社が約款に定める事由に該当したと判断したことにより、取得の申込み・解約請求の受付を中止、もしくは、既に受け付けた取得の申込み・解約請求の受付を取り消した場合には、もう一方のスイッチング対象ファンドに関して、当該ファンドについて約款に定める中止・取消事由が生じているか否かにかかわらず、原則として、スイッチングによる取得の申込み・解約請求の受付を中止、もしくは、既に受け付けたスイッチングによる取得の申込み・解約請求の受付を取り消します。

投資成果に大きく影響しますので、スイッチングは、十分ご検討の上、慎重にご判断ください。

仮に、受益者がスイッチングによらず、一方のファンドの取得の申込み、および、他方のファンドの解約請求を個別に行なった場合には、中止・取消事由が生じたファンドに関しては、取得の申込み・解約請求の受付を中止、もしくは、既に受け付けた取得の申込み・解約請求の受付を取り消しますが、中止・取消事由が生じていないもう一方のファンドに関しては、取得の申込み・解約請求の受付を、通常通り取り扱います。

(4) 申込みの受付

販売会社の営業日に受け付けます。

(5) 取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

(6) 取得申込不可日

販売会社の営業日であっても、取得申込日が下記のいずれかに該当する場合は、取得の申込み（スイッチングを含みます。）の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

ニューヨーク証券取引所の休業日

ニューヨークの銀行休業日

(7) 申込金額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に取得申込口数を乗じて得た額に、申込手数料と当該手数料に係る消費税等相当額を加算した額です。

(8) 申込単位

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

＜委託会社の照会先＞

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

(9) 申込代金の支払い

取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する日までに販売会社へお支払いください。

(10) 受付の中止および取消

- ・委託会社は、投資対象とする投資信託証券への投資ができない場合、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少など、その他やむを得ない事情があるときは、取得の申込み（スイッチングを含みます。以下同じ。）の受付を中止すること、および既に受け付けた取得の申込みの受付を取り消すことができます。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。

- ・委託会社は、当ファンドのスイッチング元となる以下のファンド（当ファンドを除きます。）が解約請求の実行を停止した場合で、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、解約請求の実行の停止を解除した後の最初の基準価額の計算日（この計算日が解約請求を受け付けない日であるときは、この計算日以降の最初の解約請求を受け付けることができる日とします。）に当該スイッチングの申込みを受け付けたものとして取り扱います。

資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース>（毎月分配型）

資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>（毎月分配型）

資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース>（毎月分配型）

資源株ファンド 通貨選択シリーズ<米ドル・コース>（毎月分配型）

(11) 償還乗換

- ・受益者は、証券投資信託の償還金額（手取額）の範囲内（単位型証券投資信託については、償還金額（手取額）とその元本額のいずれか大きい額とします。）で取得する口数に係る申込手数料を徴収されない措置の適用を受けることができる場合があります。この償還乗換優遇措置を採用するか否かの選択は販売会社に任せられておりますので、販売会社により対応が異なります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・この措置の適用を受ける受益者は、販売会社から、償還金の支払いを受けたことを証する書類の提示を求められることがあります。

(12) 乗換優遇

受益者は、信託期間終了日の1年前以内などの一定の要件を満たした証券投資信託を解約または買取請求により換金した際の代金をもって、換金を行なった販売会社において、取得申込みをする場合の手数料率が割引となる措置の適用を受けることができます。この乗換優遇措置を採用するか否かの選択は販売会社に任せられておりますので、販売会社により対応が異なります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

2【換金（解約）手続等】

<解約請求による換金>

(1) 解約の受付

販売会社の営業日に受け付けます。

(2) 取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

(3) 解約請求不可日

販売会社の営業日であっても、解約請求日が下記のいずれかに該当する場合は、解約請求（スイッチングを含みます。）の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

ニューヨーク証券取引所の休業日

ニューヨークの銀行休業日

(4) 解約制限

ファンドの規模および商品性格などに基つき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の解約には受付時間制限および金額制限を行なう場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(5) 解約価額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

- ・基準価額につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

<委託会社の照会先>

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

(6) 手取額

1口当たりの手取額は、解約価額から所得税および地方税を差し引いた金額となります。

税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。

詳しくは、「課税上の取扱い」をご覧ください。

(7) 解約単位

1口単位

販売会社によっては、解約単位が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(8) 解約代金の支払い

原則として、解約請求受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

(9) 受付の中止および取消

- ・委託会社は、投資対象とする投資信託証券からの換金ができない場合、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少など、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求(スイッチングを含みます。以下同じ。)の受付を中止すること、および既に受け付けた解約請求の受付を取り消すことができます。解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止当日およびその前営業日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日(この計算日が解約請求を受け付けない日であるときは、この計算日以降の最初の解約請求を受け付けることができる日とします。)に解約請求を受け付けたものとして取り扱います。

- ・委託会社は、当ファンドのスイッチング先となる以下のファンド(当ファンドを除きます。)が取得の申込みの受付を行わない措置を取ったときは、原則として当該スイッチングの受付を停止します。スイッチングの受付を停止した場合には、受益者は当該受付停止当日およびその前営業日のスイッチングの申込みを撤回できます。ただし、受益者がそのスイッチングの申込みを撤回しない場合には、当該受付停止を解除した後の最初の基準価額の計算日(この計算日が解約請求を受け付けない日であるときは、この計算日以降の最初の解約請求を受け付けることができる日とします。)にスイッチングを受け付けたものとして取り扱います。

資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース>(毎月分配型)

資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>(毎月分配型)

資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース>(毎月分配型)

資源株ファンド 通貨選択シリーズ<米ドル・コース>(毎月分配型)

3【資産管理等の概要】

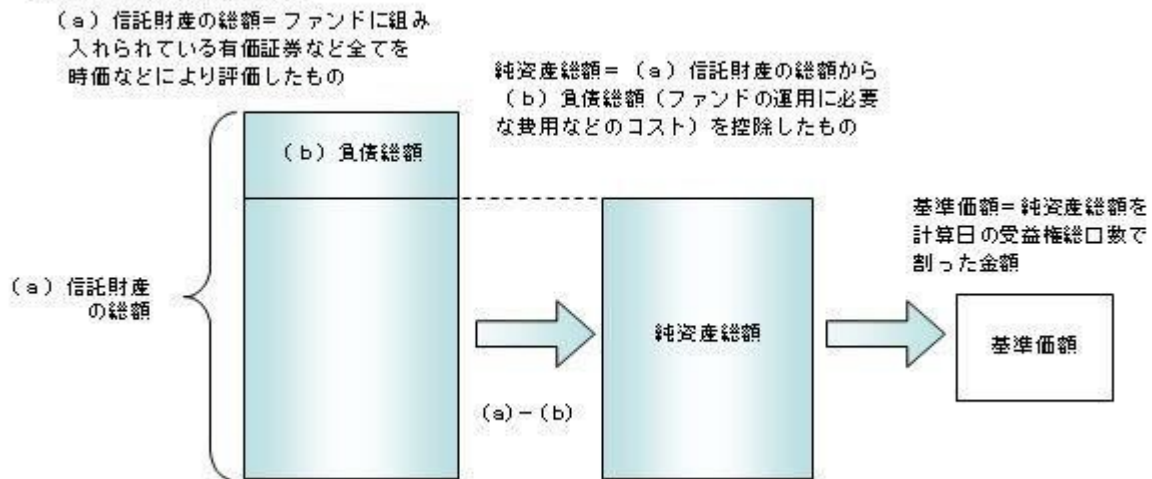
(1)【資産の評価】

基準価額の算出

- ・基準価額は委託会社の営業日において日々算出されます。

- ・基準価額とは、信託財産に属する資産を評価して得た信託財産の総額から負債総額を控除した金額(純資産総額)を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、ファンドは1万口当たり換算した価額で表示することがあります。

<基準価額算出の流れ>



有価証券などの評価基準

- 信託財産に属する資産については、法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価します。

<主な資産の評価方法>

投資信託証券（国内籍）

原則として、基準価額計算日の基準価額で評価します。

投資信託証券（外国籍）

原則として、基準価額計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。

- 外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます。）の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客相場の仲値によって計算します。

基準価額の照会方法

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

<委託会社の照会先>

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

平成36年6月17日までとします（平成21年11月20日設定）。ただし、約款の規定に基づき、信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

(4) 【計算期間】

毎月18日から翌月17日までとします。ただし、各計算期間の末日が休業日のときはその翌営業日を計算期間の末日とし、その翌日より次の計算期間が開始されます。

(5) 【その他】

信託の終了（繰上償還）

- 委託会社は、次のいずれかの場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し繰上償還させることができます。
 - 受益者の解約により各ファンドの純資産総額が10億円を下回ることとなった場合
 - 繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき

八) やむを得ない事情が発生したとき

- 2) この場合、委託会社は書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行ないます。（後述の「書面決議」をご覧ください。）
 - 3) 委託会社は、次のいずれかの場合には、後述の「書面決議」の規定は適用せず、信託契約を解約し繰上償還させます。
 - イ) 信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合で、書面決議が困難な場合
 - ロ) 監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたとき
 - ハ) 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき（監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、書面決議で可決された場合、存続します。）
 - 二) 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合またはその任務に違反するなどして解任された場合に、委託会社が新受託会社を選任できないとき
- 4) 繰上償還を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。

償還金について

- ・ 償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日まで）から受益者に支払います。
- ・ 償還金の支払いは、販売会社において行なわれます。

信託約款の変更など

- 1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、この信託約款を変更すること、または当ファンドと他のファンドとの併合（以下「併合」といいます。）を行なうことができます。信託約款の変更または併合を行なう際には、委託会社は、その旨および内容をあらかじめ監督官庁に届け出ます。
- 2) この変更事項のうち、その内容が重大なものまたは併合（受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものを除きます。）については、書面決議を行ないます。（後述の「書面決議」をご覧ください。）
- 3) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、後述の「書面決議」の規定を適用します。

書面決議

- 1) 繰上償還、信託約款の重大な変更または併合に対して、委託会社は書面決議を行ないます。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびにその内容および理由などの事項を定め、決議の日の2週間前までに知っている受益者に対し書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- 2) 受益者は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行使しないときは、書面決議について賛成するものとみなします。
- 3) 書面決議は、議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行ないます。
- 4) 繰上償還、信託約款の重大な変更または併合に関する委託会社の提案に対して、すべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、書面決議を行ないません。
- 5) 当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合であっても、併合にかかる他のファンドにおいて併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行なうことはできません。
- 6) 当ファンドは、受益者からの換金請求に対して、投資信託契約の一部を解約することにより応じることができるため、受益者の保護に欠けるおそれがないものとして、書面決議において反対した受益者からの買取請求は受け付けません。

<書面決議の主な流れ>



公告

公告は電子公告により行ない、委託会社のホームページに掲載します。

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

なお、やむを得ない事由によって公告を電子公告によって行なうことができない場合には、公告は日本経済新聞に掲載します。

運用報告書の作成

- ・委託会社は、年2回（6月、12月）および償還後に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成します。
- ・交付運用報告書は、原則として知れている受益者に対して交付されます。
- ・運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページに掲載されます。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の交付請求があった場合には、交付します。

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

関係法人との契約について

販売会社との募集の取扱いなどに関する契約の有効期間は契約日より1年間とします。ただし、期間満了の3ヵ月前までに、販売会社、委託会社いずれからも別段の意思表示がないときは、自動的に1年間延長されるものとし、以後も同様とします。

他の受益者の氏名などの開示の請求の制限

受益者は、委託会社または受託会社に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行なうことはできません。

1. 他の受益者の氏名または名称および住所
2. 他の受益者が有する受益権の内容

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

(1) 収益分配金・償還金受領権

- ・受益者は、ファンドの収益分配金・償還金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。
- ・ただし、受益者が収益分配金については支払開始日から5年間、償還金については支払開始日から10年間請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

(2) 解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき販売会社を通じて、委託会社に解約の請求をすることができます。

(3) 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- <資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース>（毎月分配型）>
- <資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>（毎月分配型）>
- <資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース>（毎月分配型）>

- (1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドの計算期間は、6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月ごとに作成しております。
- (3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、平成26年6月18日から平成26年12月17日までの特定期間の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース>（毎月分配型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

| | 前期 平成26年 6月17日現在 | 当期 平成26年12月17日現在 |
|-----------------|---------------------|---------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| コール・ローン | 1,585,118,848 | 1,698,321,482 |
| 投資信託受益証券 | 34,762,352,833 | 26,712,194,887 |
| 親投資信託受益証券 | 34,946,687 | 34,358,867 |
| 未収入金 | 138,830,242 | - |
| 未収利息 | 2,445 | 2,661 |
| 流動資産合計 | 36,521,251,055 | 28,444,877,897 |
| 資産合計 | 36,521,251,055 | 28,444,877,897 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | 160,925,803 | 216,216,108 |
| 未払収益分配金 | 614,420,892 | 721,698,147 |
| 未払解約金 | 482,038,053 | 160,499,674 |
| 未払受託者報酬 | 918,244 | 858,944 |
| 未払委託者報酬 | 29,690,266 | 27,772,849 |
| その他未払費用 | 2,842,456 | 1,411,860 |
| 流動負債合計 | 1,290,835,714 | 1,128,457,582 |
| 負債合計 | 1,290,835,714 | 1,128,457,582 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 61,442,089,290 | 72,169,814,764 |
| 剰余金 | | |
| 期末剰余金又は期末欠損金（ ） | 26,211,673,949 | 44,853,394,449 |
| （分配準備積立金） | 5,899,646,284 | 6,253,415,380 |
| 元本等合計 | 35,230,415,341 | 27,316,420,315 |
| 純資産合計 | 35,230,415,341 | 27,316,420,315 |
| 負債純資産合計 | 36,521,251,055 | 28,444,877,897 |

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

| | 前期 | | 当期 | |
|---|--------|----------------------------|--------|----------------------------|
| | 自 至 | 平成25年12月18日 平成26年 6月17日 | 自 至 | 平成26年 6月18日 平成26年12月17日 |
| 営業収益 | | | | |
| 受取配当金 | | 5,595,461,328 | | 5,724,074,808 |
| 受取利息 | | 215,251 | | 228,445 |
| 有価証券売買等損益 | | 754,609,078 | | 14,670,143,185 |
| 営業収益合計 | | 6,350,285,657 | | 8,945,839,932 |
| 営業費用 | | | | |
| 受託者報酬 | | 5,815,597 | | 5,471,500 |
| 委託者報酬 | | 188,039,695 | | 176,913,923 |
| その他費用 | | 2,129,645 | | 2,165,200 |
| 営業費用合計 | | 195,984,937 | | 184,550,623 |
| 営業利益又は営業損失（ ） | | 6,154,300,720 | | 9,130,390,555 |
| 経常利益又は経常損失（ ） | | 6,154,300,720 | | 9,130,390,555 |
| 当期純利益又は当期純損失（ ） | | 6,154,300,720 | | 9,130,390,555 |
| 一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ） | | 230,802,893 | | 52,003,703 |
| 期首剰余金又は期首欠損金（ ） | | 32,135,769,221 | | 26,211,673,949 |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 8,243,122,299 | | 6,489,400,494 |
| 当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 8,243,122,299 | | 6,489,400,494 |
| 当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | | - | | - |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 4,310,958,516 | | 12,053,864,234 |
| 当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | | - | | - |
| 当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 4,310,958,516 | | 12,053,864,234 |
| 分配金 | | 3,931,566,338 | | 3,894,862,502 |
| 期末剰余金又は期末欠損金（ ） | | 26,211,673,949 | | 44,853,394,449 |

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|-----------------|--|
| 有価証券の評価基準及び評価方法 | 投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該投資信託受益証券の基準価額で評価しております。 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。 |
|-----------------|--|

(貸借対照表に関する注記)

| | | 前期 平成26年 6月17日現在 | 当期 平成26年12月17日現在 |
|----|----------------------------------|---------------------|---------------------|
| 1. | 期首元本額 | 69,841,438,298円 | 61,442,089,290円 |
| | 期中追加設定元本額 | 9,866,857,102円 | 25,162,761,411円 |
| | 期中一部解約元本額 | 18,266,206,110円 | 14,435,035,937円 |
| 2. | 受益権の総数 | 61,442,089,290口 | 72,169,814,764口 |
| 3. | 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額 | 26,211,673,949円 | 44,853,394,449円 |

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

| 前期 自 平成25年12月18日 至 平成26年 6月17日 | | 当期 自 平成26年 6月18日 至 平成26年12月17日 | |
|--------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| 分配金の計算過程 | | 分配金の計算過程 | |
| 自 平成25年12月18日 至 平成26年 1月17日 | | 自 平成26年 6月18日 至 平成26年 7月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 927,205,199円 | A 計算期末における費用控除後の 配当等収益 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 26,419,687,337円 | C 信託約款に定める収益調整金 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立 金 | 5,946,623,787円 | D 信託約款に定める分配準備積立 金 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 33,293,516,323円 | E 分配対象収益(A+B+C+D) |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 4,831円 | F 分配対象収益(1万口当たり) |
| G | 分配金額 | 689,023,489円 | G 分配金額 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 | H 分配金額(1万口当たり) |
| 自 平成26年 1月18日 至 平成26年 2月17日 | | 自 平成26年 7月18日 至 平成26年 8月18日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 927,832,186円 | A 計算期末における費用控除後の 配当等収益 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 |

| | | | | | |
|---|------------------------------|-----------------|---|------------------------------|-----------------|
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 26,222,416,097円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 25,532,502,773円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 6,066,296,490円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 5,493,631,797円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 33,216,544,773円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 31,893,309,061円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 4,867円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 5,106円 |
| G | 分配金額 | 682,345,767円 | G | 分配金額 | 624,557,736円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 |
| | 自 平成26年 2月18日 | | | 自 平成26年 8月19日 | |
| | 至 平成26年 3月17日 | | | 至 平成26年 9月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 917,576,790円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 880,102,255円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 25,790,325,695円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 25,738,691,667円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 6,133,092,894円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 5,444,493,608円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 32,840,995,379円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 32,063,287,530円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 4,905円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 5,148円 |
| G | 分配金額 | 669,523,102円 | G | 分配金額 | 622,803,629円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 |
| | 自 平成26年 3月18日 | | | 自 平成26年 9月18日 | |
| | 至 平成26年 4月17日 | | | 至 平成26年10月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 913,832,085円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 913,753,473円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 25,103,382,661円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 26,614,564,398円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 6,041,305,447円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 5,574,612,952円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 32,058,520,193円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 33,102,930,823円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 4,946円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 5,191円 |
| G | 分配金額 | 648,110,270円 | G | 分配金額 | 637,575,360円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 |
| | 自 平成26年 4月18日 | | | 自 平成26年10月18日 | |
| | 至 平成26年 5月19日 | | | 至 平成26年11月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 861,621,584円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 978,855,319円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 24,628,715,977円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 28,626,910,078円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 5,822,239,156円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 5,784,341,907円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 31,312,576,717円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 35,390,107,304円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 4,984円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 5,240円 |
| G | 分配金額 | 628,142,818円 | G | 分配金額 | 675,377,484円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 |
| | 自 平成26年 5月20日 | | | 自 平成26年11月18日 | |
| | 至 平成26年 6月17日 | | | 至 平成26年12月17日 | |

| | | | | | |
|---|------------------------------|-----------------|---|------------------------------|-----------------|
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 854,772,836円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 1,053,122,411円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 24,356,873,837円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 31,185,345,967円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立 金 | 5,659,294,340円 | D | 信託約款に定める分配準備積立 金 | 5,921,991,116円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 30,870,941,013円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 38,160,459,494円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 5,024円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 5,287円 |
| G | 分配金額 | 614,420,892円 | G | 分配金額 | 721,698,147円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 100円 |

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

| | 前期 自 平成25年12月18日 至 平成26年 6月17日 | 当期 自 平成26年 6月18日 至 平成26年12月17日 |
|-----------------------|---|--------------------------------------|
| 金融商品に対する取組方針 | 当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。 | 同左 |
| 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク | 当ファンドが運用する主な有価証券は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券等であり、全て売買目的で保有しております。また、主なデリバティブ取引には、先物取引、オプション取引、スワップ取引等があり、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するために行うことができます。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。 | 同左 |
| 金融商品に係るリスク管理体制 | 運用部門、営業部門と独立した組織であるリスク管理部門を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。 | 同左 |

金融商品の時価等に関する事項

| | 前期 平成26年 6月17日現在 | 当期 平成26年12月17日現在 |
|-------------------|-------------------------------------|---------------------|
| 貸借対照表計上額、時価及びその差額 | 貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませぬ。 | 同左 |
| 時価の算定方法 | (1)有価証券 | (1)有価証券 |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| | <p>売買目的有価証券</p> <p>重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3)上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。</p> | <p>同左</p> <p>(2)デリバティブ取引 同左</p> <p>(3)上記以外の金融商品 同左</p> |
| 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> | <p>同左</p> |

（有価証券に関する注記）

前期（平成26年 6月17日現在）

売買目的有価証券

（単位：円）

| 種類 | 最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|-----------|---------------------|
| 投資信託受益証券 | 178,129,985 |
| 親投資信託受益証券 | 1 |
| 合計 | 178,129,986 |

当期（平成26年12月17日現在）

売買目的有価証券

（単位：円）

| 種類 | 最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|-----------|---------------------|
| 投資信託受益証券 | 6,701,571,005 |
| 親投資信託受益証券 | 3,418 |
| 合計 | 6,701,567,587 |

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

| 前期 平成26年 6月17日現在 | | 当期 平成26年12月17日現在 | |
|---------------------|----------|---------------------|----------|
| 1口当たり純資産額 | 0.5734円 | 1口当たり純資産額 | 0.3785円 |
| (1万口当たり純資産額) | (5,734円) | (1万口当たり純資産額) | (3,785円) |

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

（単位：円）

| 種類 | 銘柄 | 券面総額 | 評価額 | 備考 |
|--------------|-----------------------------|-----------------|----------------|----|
| 投資信託受益証券 | ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス | 100,384,046,927 | 26,712,194,887 | |
| 投資信託受益証券 合計 | | 100,384,046,927 | 26,712,194,887 | |
| 親投資信託受益証券 | マネー・アカウント・マザーファンド | 34,215,164 | 34,358,867 | |
| 親投資信託受益証券 合計 | | 34,215,164 | 34,358,867 | |
| 合計 | | 100,418,262,091 | 26,746,553,754 | |

(注)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>（毎月分配型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

| | 前期 平成26年 6月17日現在 | 当期 平成26年12月17日現在 |
|-----------------|---------------------|---------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| コール・ローン | 26,181,554 | 33,972,756 |
| 投資信託受益証券 | 590,192,524 | 463,802,307 |
| 親投資信託受益証券 | 597,156 | 538,244 |
| 未収入金 | 2,134,406 | - |
| 未収利息 | 40 | 53 |
| 流動資産合計 | 619,105,680 | 498,313,360 |
| 資産合計 | 619,105,680 | 498,313,360 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | 8,009,852 | 9,764,814 |
| 未払収益分配金 | 6,704,578 | 6,980,419 |
| 未払解約金 | 7,038,004 | 2,177,348 |
| 未払受託者報酬 | 15,839 | 15,094 |
| 未払委託者報酬 | 512,537 | 488,383 |
| その他未払費用 | 727,938 | 289,191 |
| 流動負債合計 | 23,008,748 | 19,715,249 |
| 負債合計 | 23,008,748 | 19,715,249 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 957,796,921 | 997,202,726 |
| 剰余金 | | |
| 期末剰余金又は期末欠損金（ ） | 361,699,989 | 518,604,615 |
| （分配準備積立金） | 263,998,381 | 267,631,374 |
| 元本等合計 | 596,096,932 | 478,598,111 |
| 純資産合計 | 596,096,932 | 478,598,111 |
| 負債純資産合計 | 619,105,680 | 498,313,360 |

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

| | 前期 | | 当期 | |
|---|--------|----------------------------|--------|----------------------------|
| | 自 至 | 平成25年12月18日 平成26年 6月17日 | 自 至 | 平成26年 6月18日 平成26年12月17日 |
| 営業収益 | | | | |
| 受取配当金 | | 92,982,304 | | 94,526,063 |
| 受取利息 | | 3,498 | | 6,273 |
| 有価証券売買等損益 | | 47,219,817 | | 191,475,390 |
| 営業収益合計 | | 45,765,985 | | 96,943,054 |
| 営業費用 | | | | |
| 受託者報酬 | | 103,456 | | 98,057 |
| 委託者報酬 | | 3,346,883 | | 3,172,636 |
| その他費用 | | 324,610 | | 302,696 |
| 営業費用合計 | | 3,774,949 | | 3,573,389 |
| 営業利益又は営業損失() | | 41,991,036 | | 100,516,443 |
| 経常利益又は経常損失() | | 41,991,036 | | 100,516,443 |
| 当期純利益又は当期純損失() | | 41,991,036 | | 100,516,443 |
| 一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額() | | 2,217,549 | | 3,817 |
| 期首剰余金又は期首欠損金() | | 433,138,411 | | 361,699,989 |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 106,892,218 | | 68,694,150 |
| 当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 106,892,218 | | 68,694,150 |
| 当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | | - | | - |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 31,605,596 | | 82,960,805 |
| 当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | | - | | - |
| 当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 31,605,596 | | 82,960,805 |
| 分配金 | | 43,621,687 | | 42,117,711 |
| 期末剰余金又は期末欠損金() | | 361,699,989 | | 518,604,615 |

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|-----------------|--|
| 有価証券の評価基準及び評価方法 | 投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該投資信託受益証券の基準価額で評価しております。 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。 |
|-----------------|--|

(貸借対照表に関する注記)

| | | 前期 平成26年 6月17日現在 | 当期 平成26年12月17日現在 |
|----|----------------------------------|---------------------|---------------------|
| 1. | 期首元本額 | 1,149,700,581円 | 957,796,921円 |
| | 期中追加設定元本額 | 82,254,625円 | 212,817,995円 |
| | 期中一部解約元本額 | 274,158,285円 | 173,412,190円 |
| 2. | 受益権の総数 | 957,796,921口 | 997,202,726口 |
| 3. | 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額 | 361,699,989円 | 518,604,615円 |

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

| 前期 自 平成25年12月18日 至 平成26年 6月17日 | | 当期 自 平成26年 6月18日 至 平成26年12月17日 | |
|--------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 分配金の計算過程 | | 分配金の計算過程 | |
| 自 平成25年12月18日 至 平成26年 1月17日 | | 自 平成26年 6月18日 至 平成26年 7月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 15,405,714円 | A 計算期末における費用控除後の 配当等収益 14,461,993円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 407,327,940円 | C 信託約款に定める収益調整金 396,167,341円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立 金 | 279,536,381円 | D 信託約款に定める分配準備積立 金 260,093,108円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 702,270,035円 | E 分配対象収益(A+B+C+D) 670,722,442円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 6,289円 | F 分配対象収益(1万口当たり) 6,738円 |
| G | 分配金額 | 7,816,421円 | G 分配金額 6,967,531円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 70円 | H 分配金額(1万口当たり) 70円 |
| 自 平成26年 1月18日 至 平成26年 2月17日 | | 自 平成26年 7月18日 至 平成26年 8月18日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 15,548,609円 | A 計算期末における費用控除後の 配当等収益 14,832,590円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 0円 |

| | | | | | |
|---|------------------------------|--------------|---|------------------------------|--------------|
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 409,972,513円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 411,844,594円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 278,416,607円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 259,061,054円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 703,937,729円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 685,738,238円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 6,359円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 6,815円 |
| G | 分配金額 | 7,748,164円 | G | 分配金額 | 7,042,573円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 70円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 70円 |
| | 自平成26年2月18日 | | | 自平成26年8月19日 | |
| | 至平成26年3月17日 | | | 至平成26年9月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 14,920,645円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 15,179,662円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 389,962,988円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 426,169,953円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 268,993,574円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 257,464,160円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 673,877,207円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 698,813,775円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 6,432円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 6,895円 |
| G | 分配金額 | 7,333,768円 | G | 分配金額 | 7,093,819円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 70円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 70円 |
| | 自平成26年3月18日 | | | 自平成26年9月18日 | |
| | 至平成26年4月17日 | | | 至平成26年10月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 14,949,491円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 15,425,557円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 383,400,782円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 429,705,846円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 261,765,643円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 259,548,122円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 660,115,916円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 704,679,525円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 6,509円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 6,978円 |
| G | 分配金額 | 7,098,561円 | G | 分配金額 | 7,068,415円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 70円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 70円 |
| | 自平成26年4月18日 | | | 自平成26年10月18日 | |
| | 至平成26年5月19日 | | | 至平成26年11月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 14,486,034円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 15,855,504円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 375,722,291円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 425,906,413円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 260,886,616円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 261,533,458円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 651,094,941円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 703,295,375円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 6,586円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,068円 |
| G | 分配金額 | 6,920,195円 | G | 分配金額 | 6,964,954円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 70円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 70円 |
| | 自平成26年5月20日 | | | 自平成26年11月18日 | |
| | 至平成26年6月17日 | | | 至平成26年12月17日 | |

| | | | |
|--------------------------------|--------------|--------------------------------|--------------|
| A 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 14,085,652円 | A 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 15,685,940円 |
| B 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C 信託約款に定める収益調整金 | 367,494,299円 | C 信託約款に定める収益調整金 | 439,050,757円 |
| D 信託約款に定める分配準備積立 金 | 256,617,307円 | D 信託約款に定める分配準備積立 金 | 258,925,853円 |
| E 分配対象収益(A+B+C+D) | 638,197,258円 | E 分配対象収益(A+B+C+D) | 713,662,550円 |
| F 分配対象収益(1万口当たり) | 6,663円 | F 分配対象収益(1万口当たり) | 7,156円 |
| G 分配金額 | 6,704,578円 | G 分配金額 | 6,980,419円 |
| H 分配金額(1万口当たり) | 70円 | H 分配金額(1万口当たり) | 70円 |

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

| | 前期 自 平成25年12月18日 至 平成26年 6月17日 | 当期 自 平成26年 6月18日 至 平成26年12月17日 |
|-----------------------|---|--------------------------------------|
| 金融商品に対する取組方針 | 当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。 | 同左 |
| 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク | 当ファンドが運用する主な有価証券は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券等であり、全て売買目的で保有しております。また、主なデリバティブ取引には、先物取引、オプション取引、スワップ取引等があり、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するために行うことができます。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。 | 同左 |
| 金融商品に係るリスク管理体制 | 運用部門、営業部門と独立した組織であるリスク管理部門を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。 | 同左 |

金融商品の時価等に関する事項

| | 前期 平成26年 6月17日現在 | 当期 平成26年12月17日現在 |
|-------------------|-------------------------------------|---------------------|
| 貸借対照表計上額、時価及びその差額 | 貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませぬ。 | 同左 |
| 時価の算定方法 | (1)有価証券 | (1)有価証券 |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| | <p>売買目的有価証券</p> <p>重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3)上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。</p> | <p>同左</p> <p>(2)デリバティブ取引 同左</p> <p>(3)上記以外の金融商品 同左</p> |
| 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> | <p>同左</p> |

（有価証券に関する注記）

前期（平成26年 6月17日現在）

売買目的有価証券

（単位：円）

| 種類 | 最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|-----------|---------------------|
| 投資信託受益証券 | 22,795,092 |
| 親投資信託受益証券 | 1 |
| 合計 | 22,795,093 |

当期（平成26年12月17日現在）

売買目的有価証券

（単位：円）

| 種類 | 最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|-----------|---------------------|
| 投資信託受益証券 | 111,619,837 |
| 親投資信託受益証券 | 53 |
| 合計 | 111,619,784 |

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

| 前期 平成26年 6月17日現在 | | 当期 平成26年12月17日現在 | |
|---------------------|----------|---------------------|----------|
| 1口当たり純資産額 | 0.6224円 | 1口当たり純資産額 | 0.4799円 |
| (1万口当たり純資産額) | (6,224円) | (1万口当たり純資産額) | (4,799円) |

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

（単位：円）

| 種類 | 銘柄 | 券面総額 | 評価額 | 備考 |
|--------------|------------------------------|---------------|-------------|----|
| 投資信託受益証券 | ナチュラル・リソース・ファンド 南アフリカランド・クラス | 1,858,182,323 | 463,802,307 | |
| 投資信託受益証券 合計 | | 1,858,182,323 | 463,802,307 | |
| 親投資信託受益証券 | マネー・アカウント・マザーファンド | 535,993 | 538,244 | |
| 親投資信託受益証券 合計 | | 535,993 | 538,244 | |
| 合計 | | 1,858,718,316 | 464,340,551 | |

(注)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース>（毎月分配型）】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

| | 前期 平成26年 6月17日現在 | 当期 平成26年12月17日現在 |
|-----------------|---------------------|---------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| コール・ローン | 55,443,084 | 101,695,946 |
| 投資信託受益証券 | 1,971,691,042 | 1,929,111,442 |
| 親投資信託受益証券 | 1,944,023 | 2,158,978 |
| 未収利息 | 85 | 159 |
| 流動資産合計 | 2,029,078,234 | 2,032,966,525 |
| 資産合計 | 2,029,078,234 | 2,032,966,525 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | 28,686,861 | 123,375,622 |
| 未払収益分配金 | 11,949,700 | 15,235,269 |
| 未払解約金 | 6,464,501 | 1,863,335 |
| 未払受託者報酬 | 52,265 | 56,783 |
| 未払委託者報酬 | 1,690,261 | 1,836,402 |
| その他未払費用 | 1,465,893 | 784,133 |
| 流動負債合計 | 50,309,481 | 143,151,544 |
| 負債合計 | 50,309,481 | 143,151,544 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 1,991,616,687 | 2,539,211,598 |
| 剰余金 | | |
| 期末剰余金又は期末欠損金（ ） | 12,847,934 | 649,396,617 |
| （分配準備積立金） | 405,224,649 | 449,776,662 |
| 元本等合計 | 1,978,768,753 | 1,889,814,981 |
| 純資産合計 | 1,978,768,753 | 1,889,814,981 |
| 負債純資産合計 | 2,029,078,234 | 2,032,966,525 |

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

| | 前期 | | 当期 | |
|---|--------|----------------------------|--------|----------------------------|
| | 自 至 | 平成25年12月18日 平成26年 6月17日 | 自 至 | 平成26年 6月18日 平成26年12月17日 |
| 営業収益 | | | | |
| 受取配当金 | | 206,577,146 | | 207,183,184 |
| 受取利息 | | 12,347 | | 20,292 |
| 有価証券売買等損益 | | 122,221,356 | | 719,950,994 |
| 営業収益合計 | | 328,810,849 | | 512,747,518 |
| 営業費用 | | | | |
| 受託者報酬 | | 356,584 | | 342,560 |
| 委託者報酬 | | 11,531,477 | | 11,078,299 |
| その他費用 | | 588,096 | | 830,766 |
| 営業費用合計 | | 12,476,157 | | 12,251,625 |
| 営業利益又は営業損失() | | 316,334,692 | | 524,999,143 |
| 経常利益又は経常損失() | | 316,334,692 | | 524,999,143 |
| 当期純利益又は当期純損失() | | 316,334,692 | | 524,999,143 |
| 一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額() | | 11,796,635 | | 2,466,793 |
| 期首剰余金又は期首欠損金() | | 270,869,325 | | 12,847,934 |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 47,358,827 | | 18,350,478 |
| 当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 47,358,827 | | 12,532,736 |
| 当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | | - | | 5,817,742 |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 9,385,878 | | 44,819,976 |
| 当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | | - | | 1,116,999 |
| 当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 9,385,878 | | 43,702,977 |
| 分配金 | | 84,489,615 | | 82,613,249 |
| 期末剰余金又は期末欠損金() | | 12,847,934 | | 649,396,617 |

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|-----------------|--|
| 有価証券の評価基準及び評価方法 | 投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該投資信託受益証券の基準価額で評価しております。 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。 |
|-----------------|--|

(貸借対照表に関する注記)

| | | 前期 平成26年 6月17日現在 | 当期 平成26年12月17日現在 |
|----|----------------------------------|---------------------|---------------------|
| 1. | 期首元本額 | 2,602,884,190円 | 1,991,616,687円 |
| | 期中追加設定元本額 | 145,798,906円 | 926,792,052円 |
| | 期中一部解約元本額 | 757,066,409円 | 379,197,141円 |
| 2. | 受益権の総数 | 1,991,616,687口 | 2,539,211,598口 |
| 3. | 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額 | 12,847,934円 | 649,396,617円 |

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

| 前期 自 平成25年12月18日 至 平成26年 6月17日 | | 当期 自 平成26年 6月18日 至 平成26年12月17日 | |
|--------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 分配金の計算過程 | | 分配金の計算過程 | |
| 自 平成25年12月18日 至 平成26年 1月17日 | | 自 平成26年 6月18日 至 平成26年 7月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 35,645,875円 | A 計算期末における費用控除後の 配当等収益 28,964,480円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,374,975,485円 | C 信託約款に定める収益調整金 1,169,983,944円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立 金 | 425,925,682円 | D 信託約款に定める分配準備積立 金 376,747,213円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,836,547,042円 | E 分配対象収益(A+B+C+D) 1,575,695,637円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,073円 | F 分配対象収益(1万口当たり) 7,557円 |
| G | 分配金額 | 15,579,164円 | G 分配金額 12,510,083円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 | H 分配金額(1万口当たり) 60円 |
| 自 平成26年 1月18日 至 平成26年 2月17日 | | 自 平成26年 7月18日 至 平成26年 8月18日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 34,906,611円 | A 計算期末における費用控除後の 配当等収益 30,943,706円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 0円 |

| | | | | | |
|---|------------------------------|----------------|---|------------------------------|----------------|
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,361,122,391円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,293,878,549円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 436,844,201円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 381,901,702円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,832,873,203円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,706,723,957円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,149円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,636円 |
| G | 分配金額 | 15,382,376円 | G | 分配金額 | 13,410,420円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 |
| | 自平成26年2月18日 | | | 自平成26年8月19日 | |
| | 至平成26年3月17日 | | | 至平成26年9月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 34,391,043円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 31,738,161円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,326,921,554円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,326,049,996円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 443,465,642円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 388,208,573円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,804,778,239円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,745,996,730円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,226円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,716円 |
| G | 分配金額 | 14,983,712円 | G | 分配金額 | 13,575,834円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 |
| | 自平成26年3月18日 | | | 自平成26年9月18日 | |
| | 至平成26年4月17日 | | | 至平成26年10月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 33,344,759円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 32,687,803円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,221,456,558円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,348,435,582円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 424,381,692円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 399,645,980円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,679,183,009円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,780,769,365円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,312円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,799円 |
| G | 分配金額 | 13,778,454円 | G | 分配金額 | 13,698,541円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 |
| | 自平成26年4月18日 | | | 自平成26年10月18日 | |
| | 至平成26年5月19日 | | | 至平成26年11月17日 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 29,482,437円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 35,800,637円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,139,762,171円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,418,349,846円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 409,434,444円 | D | 信託約款に定める分配準備積立金 | 411,420,859円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,578,679,052円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,865,571,342円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,390円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,892円 |
| G | 分配金額 | 12,816,209円 | G | 分配金額 | 14,183,102円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 |
| | 自平成26年5月20日 | | | 自平成26年11月18日 | |
| | 至平成26年6月17日 | | | 至平成26年12月17日 | |

| | | | | | |
|---|------------------------------|----------------|---|------------------------------|----------------|
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 28,661,024円 | A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 37,130,877円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 | B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 0円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,071,480,064円 | C | 信託約款に定める収益調整金 | 1,561,114,376円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立 金 | 388,513,325円 | D | 信託約款に定める分配準備積立 金 | 427,881,054円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 1,488,654,413円 | E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 2,026,126,307円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,474円 | F | 分配対象収益(1万口当たり) | 7,979円 |
| G | 分配金額 | 11,949,700円 | G | 分配金額 | 15,235,269円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 | H | 分配金額(1万口当たり) | 60円 |

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

| | 前期 自 平成25年12月18日 至 平成26年 6月17日 | 当期 自 平成26年 6月18日 至 平成26年12月17日 |
|-----------------------|---|--------------------------------------|
| 金融商品に対する取組方針 | 当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。 | 同左 |
| 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク | 当ファンドが運用する主な有価証券は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券等であり、全て売買目的で保有しております。また、主なデリバティブ取引には、先物取引、オプション取引、スワップ取引等があり、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するために行うことができます。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。 | 同左 |
| 金融商品に係るリスク管理体制 | 運用部門、営業部門と独立した組織であるリスク管理部門を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。 | 同左 |

金融商品の時価等に関する事項

| | 前期 平成26年 6月17日現在 | 当期 平成26年12月17日現在 |
|-------------------|-------------------------------------|---------------------|
| 貸借対照表計上額、時価及びその差額 | 貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませぬ。 | 同左 |
| 時価の算定方法 | (1)有価証券 | (1)有価証券 |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| | <p>売買目的有価証券</p> <p>重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3)上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。</p> | <p>同左</p> <p>(2)デリバティブ取引 同左</p> <p>(3)上記以外の金融商品 同左</p> |
| 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> | <p>同左</p> |

（有価証券に関する注記）

前期（平成26年 6月17日現在）

売買目的有価証券

（単位：円）

| 種類 | 最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|-----------|---------------------|
| 投資信託受益証券 | 18,610,539 |
| 親投資信託受益証券 | 193 |
| 合計 | 18,610,732 |

当期（平成26年12月17日現在）

売買目的有価証券

（単位：円）

| 種類 | 最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|-----------|---------------------|
| 投資信託受益証券 | 436,949,290 |
| 親投資信託受益証券 | 214 |
| 合計 | 436,949,076 |

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

| 前期 平成26年 6月17日現在 | | 当期 平成26年12月17日現在 | |
|---------------------|----------|---------------------|----------|
| 1口当たり純資産額 | 0.9935円 | 1口当たり純資産額 | 0.7443円 |
| (1万口当たり純資産額) | (9,935円) | (1万口当たり純資産額) | (7,443円) |

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

（単位：円）

| 種類 | 銘柄 | 券面総額 | 評価額 | 備考 |
|--------------|-------------------------------|---------------|---------------|----|
| 投資信託受益証券 | ナチュラル・リソース・ファンド オーストラリアドル・クラス | 3,835,974,235 | 1,929,111,442 | |
| 投資信託受益証券 合計 | | 3,835,974,235 | 1,929,111,442 | |
| 親投資信託受益証券 | マネー・アカウント・マザーファンド | 2,149,949 | 2,158,978 | |
| 親投資信託受益証券 合計 | | 2,149,949 | 2,158,978 | |
| 合計 | | 3,838,124,184 | 1,931,270,420 | |

(注)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

以下のファンドの現況は2014年12月30日現在です。

【資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース>(毎月分配型)】

【純資産額計算書】

| | |
|----------------|-----------------|
| 資産総額 | 32,090,946,573円 |
| 負債総額 | 253,730,614円 |
| 純資産総額(-) | 31,837,215,959円 |
| 発行済口数 | 74,005,438,919口 |
| 1口当たり純資産額(/) | 0.4302円 |

【資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>(毎月分配型)】

【純資産額計算書】

| | |
|----------------|----------------|
| 資産総額 | 539,424,877円 |
| 負債総額 | 2,031,161円 |
| 純資産総額(-) | 537,393,716円 |
| 発行済口数 | 1,000,840,433口 |
| 1口当たり純資産額(/) | 0.5369円 |

【資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース>(毎月分配型)】

【純資産額計算書】

| | |
|----------------|----------------|
| 資産総額 | 2,452,443,501円 |
| 負債総額 | 2,740,779円 |
| 純資産総額(-) | 2,449,702,722円 |
| 発行済口数 | 3,001,760,093口 |
| 1口当たり純資産額(/) | 0.8161円 |

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 名義書換

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求を行なわないものとします。

(2) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

(3) 譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

受益権の譲渡

- ・受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ・前述の申請のある場合には、振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社債、株式等の振替に関する法律の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。
- ・前述の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合などにおいて、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(4) 受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

(5) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(6) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払いなどについては、約款の規定によるほか、民法その他の法令などにしたがって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額

| | | |
|-------------|----------|-----------------|
| 平成26年12月末現在 | 資本金 | 17,363,045,900円 |
| | 発行可能株式総数 | 230,000,000株 |
| | 発行済株式総数 | 197,012,500株 |

過去5年間における主な資本金の増減：該当事項はありません。

(2) 会社の意思決定機関（平成26年12月末現在）

・株主総会

株主総会は、取締役・監査役の選任および定款変更に係る決議などの株式会社の基本的な方針や重要な事項の決定を行ないます。

当社は、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された議決権を有する株主をもって、その事業年度に関する定時株主総会において、その権利を行使することができる株主とみなし、毎年3月31日（事業年度の終了）から3ヶ月以内にこれを招集し、臨時株主総会は必要に応じてこれを招集します。

・取締役会

取締役会は、業務執行の決定を行い、取締役の職務の執行の監督をします。

当社の取締役会は10名以内の取締役で構成され、取締役の任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。取締役会はその決議をもって、代表取締役若干名を選定します。

・監査役会

当社の監査役会は5名以内の監査役で構成され、監査役の任期は選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までを任期とします。監査役会は、その決議をもって常勤の監査役を選定します。

(3) 運用の意思決定プロセス（平成26年12月末現在）

1. 投資委員会にて、国内外の経済見通し、市況見通しおよび資産配分の基本方針を決定します。
2. 各運用部門は、投資委員会の決定に基づき、個別資産および資産配分戦略に係る具体的な運用方針を策定します。
3. 各運用部門のファンドマネージャーは、上記方針を受け、個別ファンドのガイドラインおよびそれぞれの運用方針に沿って、ポートフォリオを構築・管理します。
4. トレーディング部門は、社会的信用力、情報提供力、執行対応力において最適と判断し得る発注業者、発注方針などを決定します。その上で、トレーダーは、最良執行のプロセスに則り売買を執行します。
5. 運用に関するリスク・パフォーマンスの評価と分析および法令など遵守状況のモニタリングとリスクの管理については、運用部門から独立したリスク管理/コンプライアンス業務担当部門が担当し、これを運用部門にフィードバックすることにより、適切な運用体制を維持できるように努めています。

2【事業の内容及び営業の概況】

- ・「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行なうとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行なっています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行なっています。
- ・委託会社の運用する、平成26年12月末現在の投資信託などは次の通りです。

| 種 類 | ファンド本数 | 純資産額 (単位：億円) |
|---------|--------|-----------------|
| 投資信託総合計 | 551 | 107,757 |

| | | |
|---------|-----|--------|
| 株式投資信託 | 496 | 82,167 |
| 単位型 | 80 | 2,230 |
| 追加型 | 416 | 79,937 |
| 公社債投資信託 | 55 | 25,590 |
| 単位型 | 39 | 383 |
| 追加型 | 16 | 25,207 |
| 投資法人合計 | 1 | 41 |

3【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)並びに同規則第38条及び第57条に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成していません。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第55期事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

また、第56期中間会計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により中間監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 第54期 (平成25年3月31日) | | 第55期 (平成26年3月31日) | |
|-----------|----------------------|--------|----------------------|--------|
| 資産の部 | | | | |
| 流動資産 | | | | |
| 現金・預金 | 3 | 15,820 | 3 | 17,805 |
| 有価証券 | | - | | 234 |
| 前払費用 | 3 | 380 | 3 | 419 |
| 未収入金 | | 4 | | 37 |
| 未収委託者報酬 | | 7,472 | | 7,162 |
| 未収収益 | 3 | 342 | 3 | 608 |
| 関係会社短期貸付金 | | 606 | | 240 |
| 立替金 | | 335 | | 303 |
| 繰延税金資産 | | 869 | | 984 |
| その他 | 2 | 30 | 2 | 30 |
| 流動資産合計 | | 25,862 | | 27,826 |
| 固定資産 | | | | |
| 有形固定資産 | | | | |
| 建物 | 1 | 48 | 1 | 47 |
| 器具備品 | 1 | 124 | 1 | 134 |

| | | |
|------------|--------|--------|
| 有形固定資産合計 | 172 | 181 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 70 | 91 |
| 無形固定資産合計 | 70 | 91 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 7,170 | 7,290 |
| 関係会社株式 | 22,935 | 21,702 |
| 関係会社長期貸付金 | 60 | 60 |
| 長期差入保証金 | 706 | 692 |
| 繰延税金資産 | 500 | 525 |
| 投資その他の資産合計 | 31,373 | 30,271 |
| 固定資産合計 | 31,616 | 30,544 |
| 資産合計 | 57,478 | 58,371 |

(単位：百万円)

| | 第54期 (平成25年3月31日) | | 第55期 (平成26年3月31日) | |
|----------|----------------------|--------|----------------------|--------|
| 負債の部 | | | | |
| 流動負債 | | | | |
| 預り金 | | 305 | | 329 |
| 未払金 | | 3,862 | | 3,404 |
| 未払収益分配金 | | 6 | | 6 |
| 未払償還金 | | 115 | | 112 |
| 未払手数料 | 3 | 3,195 | 3 | 2,743 |
| その他未払金 | | 545 | | 542 |
| 未払費用 | 3 | 3,282 | 3 | 3,239 |
| 未払法人税等 | | 589 | | 2,286 |
| 未払消費税等 | 4 | 123 | 4 | 356 |
| 賞与引当金 | | 1,770 | | 1,935 |
| 役員賞与引当金 | | 80 | | 150 |
| 流動負債合計 | | 10,012 | | 11,702 |
| 固定負債 | | | | |
| 退職給付引当金 | | 1,001 | | 1,081 |
| その他 | | 55 | | 55 |
| 固定負債合計 | | 1,057 | | 1,137 |
| 負債合計 | | 11,070 | | 12,840 |
| 純資産の部 | | | | |
| 株主資本 | | | | |
| 資本金 | | 17,363 | | 17,363 |
| 資本剰余金 | | | | |
| 資本準備金 | | 5,220 | | 5,220 |
| 資本剰余金合計 | | 5,220 | | 5,220 |
| 利益剰余金 | | | | |
| その他利益剰余金 | | | | |
| 繰越利益剰余金 | | 23,530 | | 22,694 |
| 利益剰余金合計 | | 23,530 | | 22,694 |

| | | |
|--------------|--------|--------|
| 自己株式 | 68 | 68 |
| 株主資本合計 | 46,045 | 45,209 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 362 | 321 |
| 評価・換算差額等合計 | 362 | 321 |
| 純資産合計 | 46,408 | 45,531 |
| 負債純資産合計 | 57,478 | 58,371 |

(2) 【損益計算書】

(単位：百万円)

| | 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | 52,848 | 63,120 |
| その他営業収益 | 1,922 | 2,557 |
| 営業収益合計 | 54,771 | 65,678 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | 26,955 | 31,207 |
| 広告宣伝費 | 649 | 1,081 |
| 公告費 | 7 | 2 |
| 調査費 | 10,797 | 13,405 |
| 調査費 | 691 | 712 |
| 委託調査費 | 10,089 | 12,669 |
| 図書費 | 17 | 23 |
| 委託計算費 | 406 | 465 |
| 営業雑経費 | 530 | 558 |
| 通信費 | 188 | 186 |
| 印刷費 | 214 | 252 |
| 協会費 | 46 | 43 |
| 諸会費 | 16 | 11 |
| その他 | 64 | 65 |
| 営業費用計 | 39,347 | 46,721 |
| 一般管理費 | | |
| 給料 | 6,759 | 7,171 |
| 役員報酬 | 256 | 316 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 80 | 150 |
| 給料・手当 | 4,565 | 4,719 |
| 賞与 | 87 | 50 |
| 賞与引当金繰入額 | 1,770 | 1,935 |
| 交際費 | 100 | 108 |
| 寄付金 | 66 | 54 |
| 旅費交通費 | 313 | 448 |
| 租税公課 | 188 | 209 |
| 不動産賃借料 | 753 | 755 |
| 退職給付費用 | 312 | 313 |
| 退職金 | 83 | 32 |
| 固定資産減価償却費 | 124 | 109 |
| 諸経費 | 3,061 | 3,364 |
| 一般管理費計 | 11,764 | 12,568 |
| 営業利益 | 3,659 | 6,388 |

| | 第54期 | | 第55期 | |
|----------------|-------------------------------|-------|-------------------------------|-------|
| | (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | | (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) | |
| (単位：百万円) | | | | |
| 営業外収益 | | | | |
| 受取利息 | | 12 | | 17 |
| 受取配当金 | 1 | 601 | 1 | 1,774 |
| 時効成立分配金・償還金 | | 4 | | 4 |
| 為替差益 | | 64 | | 26 |
| その他 | | 16 | | 19 |
| 営業外収益合計 | | 699 | | 1,842 |
| 営業外費用 | | | | |
| 支払利息 | | 19 | | 19 |
| 有価証券償還損 | | 1 | | - |
| 時効成立後支払分配金・償還金 | | 15 | | 22 |
| 支払源泉所得税 | | 55 | | 57 |
| その他 | | 2 | | 13 |
| 営業外費用合計 | | 93 | | 114 |
| 経常利益 | | 4,265 | | 8,116 |
| 特別利益 | | | | |
| 投資有価証券売却益 | | 226 | | 135 |
| 関係会社株式売却益 | | 239 | | - |
| 特別利益合計 | | 465 | | 135 |
| 特別損失 | | | | |
| 投資有価証券売却損 | | 84 | | 12 |
| 関係会社株式評価損 | | - | | 4,500 |
| 固定資産処分損 | | 3 | | 0 |
| 割増退職金 | | - | | 59 |
| 役員退職一時金 | | 75 | | 235 |
| 特別損失合計 | | 163 | | 4,807 |
| 税引前当期純利益 | | 4,568 | | 3,445 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 1,480 | | 3,020 |
| 法人税等調整額 | | 260 | | 119 |
| 法人税等合計 | | 1,740 | | 2,900 |
| 当期純利益 | | 2,827 | | 544 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

第54期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | | | |
|--|------|-------|---------|---------------------|---------|------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | 株主資本合計 |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | その他利益剰余金 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 | | |
| | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------|--------|-------|-------|--------|--------|----|--------|
| 当期首残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 22,172 | 22,172 | 68 | 44,687 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | 1,468 | 1,468 | | 1,468 |
| 当期純利益 | | | | 2,827 | 2,827 | | 2,827 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | 1,358 | 1,358 | - | 1,358 |
| 当期末残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 23,530 | 23,530 | 68 | 46,045 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|---------------------|----------------------|----------------|--------|
| | その他 有価証券評 価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 42 | 42 | 44,729 |
| 当期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | | | 1,468 |
| 当期純利益 | | | 2,827 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 320 | 320 | 320 |
| 当期変動額合計 | 320 | 320 | 1,678 |
| 当期末残高 | 362 | 362 | 46,408 |

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | | | |
|---------------------|--------|-------|-------------|-----------------------------|-------------|------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | 株主資本 合計 |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金 合計 | その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金 | 利益剰余 金合計 | | |
| 当期首残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 23,530 | 23,530 | 68 | 46,045 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | 1,380 | 1,380 | | 1,380 |
| 当期純利益 | | | | 544 | 544 | | 544 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | 836 | 836 | - | 836 |
| 当期末残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 22,694 | 22,694 | 68 | 45,209 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|---------------------|----------------------|----------------|--------|
| | その他 有価証券評 価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 362 | 362 | 46,408 |
| 当期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | | | 1,380 |
| 当期純利益 | | | 544 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 40 | 40 | 40 |
| 当期変動額合計 | 40 | 40 | 876 |

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 当期末残高 | 321 | 321 | 45,531 |
|-------|-----|-----|--------|

注記事項

（重要な会計方針）

| 項目 | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|---------------------------|---|
| 1 資産の評価基準及び評価方法 | <p>(1) 有価証券 子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの 決算末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、総平均法により算定) 時価のないもの 総平均法による原価法</p> |
| 2 固定資産の減価償却の方法 | <p>(1) 有形固定資産 定率法により償却しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3年～5年 器具備品 4年～20年</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法により償却しております。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> |
| 3 引当金の計上基準 | <p>(1) 賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払に充てるため、支払見込額に基づき、当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金 役員に支給する賞与の支払に充てるため、支払見込額に基づき、当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。 数理計算上の差異の費用処理方法 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。</p> |
| 4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | <p>消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税等は、当事業年度の費用として処理しております。</p> |

（表示方法の変更）

| |
|---------------------------------------|
| 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|---------------------------------------|

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を当事業年度より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、(退職給付関係)注記の表示方法を変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、(退職給付関係)の注記の組替えは行っておりません。

(貸借対照表関係)

| 第54期 (平成25年3月31日) | 第55期 (平成26年3月31日) |
|--|--|
| <p>1 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物 1,054百万円</p> <p>器具備品 618百万円</p> | <p>1 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物 1,091百万円</p> <p>器具備品 625百万円</p> |
| <p>2 信託資産</p> <p>その他流動資産の30百万円は、「直販顧客分別金信託契約」により、野村信託銀行株式会社に信託しております。</p> | <p>2 信託資産</p> <p>その他流動資産の30百万円は、「直販顧客分別金信託契約」により、野村信託銀行株式会社に信託しております。</p> |
| <p>3 関係会社に対する資産及び負債は次のとおりであります。</p> <p>(流動資産)</p> <p>現金・預金 3,818百万円</p> <p>前払費用 2百万円</p> <p>未収収益 58百万円</p> <p>(流動負債)</p> <p>未払手数料 143百万円</p> <p>未払費用 297百万円</p> | <p>3 関係会社に対する資産及び負債は次のとおりであります。</p> <p>(流動資産)</p> <p>現金・預金 6,249百万円</p> <p>前払費用 2百万円</p> <p>未収収益 74百万円</p> <p>(流動負債)</p> <p>未払手数料 98百万円</p> <p>未払費用 274百万円</p> |
| <p>4 消費税等の取扱い</p> <p>仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。</p> | <p>4 消費税等の取扱い</p> <p>仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。</p> |
| <p>5 保証債務</p> <p>当社は、Nikko Asset Management Europe Ltd がロンドン ウォール リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務87百万円に対して保証を行っております。また当社は、Nikko Asset Management Americas, Inc. がマディソン タワーアソシエイツ リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務243百万円に対して保証を行っております。</p> | <p>5 保証債務</p> <p>当社は、Nikko Asset Management Europe Ltd がロンドン ウォール リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務65百万円に対して保証を行っております。また当社は、Nikko Asset Management Americas, Inc. がマディソン タワーアソシエイツ リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務159百万円に対して保証を行っております。</p> |

(損益計算書関係)

| 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|--|--|
| <p>1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <p>受取配当金 552百万円</p> | <p>1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <p>受取配当金 1,290百万円</p> |

(株主資本等変動計算書関係)

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|-------------|---------|---------|-------------|
| 普通株式（株） | 197,012,500 | - | - | 197,012,500 |

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 普通株式（株） | 109,600 | - | - | 109,600 |

3 新株予約権等に関する事項

| 新株予約権の内訳 | 新株予約権の目的となる株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | | 当事業年度末残高(百万円) |
|--------------------|------------------|--------------------|---------|-----------|------------|---------------|
| | | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 | |
| 平成21年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 19,215,900 | - | 2,237,400 | 16,978,500 | - |
| 平成21年度ストックオプション(2) | 普通株式 | 1,676,400 | - | 49,500 | 1,626,900 | - |
| 平成22年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 2,310,000 | - | - | 2,310,000 | - |
| 第1回新株予約権 | 普通株式 | 2,955,200 | - | - | 2,955,200 | - |
| 平成23年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 6,091,800 | - | 161,700 | 5,930,100 | - |
| 合計 | | 32,249,300 | - | 2,448,600 | 29,800,700 | - |

(注) 1 平成21年度ストックオプション(1)、平成21年度ストックオプション(2)及び平成23年度ストックオプション(1)の減少は、新株予約権の失効によるものであります。

2 第1回新株予約権の新株予約権の目的となる株式の数は、新株予約権の行使に関する通知が当社に提出された日における、当社の発行済株式数×0.25%に6を乗じた数で算出され、当事業年度末の発行済株式に基づき算出しております。

3 平成21年度ストックオプション(1)13,625,700株、平成21年度ストックオプション(2)1,287,000株、平成22年度ストックオプション(1)1,732,500株及び第1回新株予約権2,955,200株は、当事業年度末現在、権利行使期間の初日が到来しておりますが、他の条件が満たされていないため新株予約権を行使することができません。また、平成23年度ストックオプション(1)は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額(百万円) | 1株当たり配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------|-------|-------------|-------------|------------|------------|
| 平成24年5月28日取締役会 | 普通株式 | 1,468 | 7.46 | 平成24年3月31日 | 平成24年6月19日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額(百万円) | 1株当たり配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------|-------|-------|-------------|-------------|------------|------------|
| 平成25年5月27日取締役会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 1,380 | 7.01 | 平成25年3月31日 | 平成25年6月18日 |

第55期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|-------------|---------|---------|-------------|
| 普通株式(株) | 197,012,500 | - | - | 197,012,500 |

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 普通株式(株) | 109,600 | - | - | 109,600 |

3 新株予約権等に関する事項

| 新株予約権の内訳 | 新株予約権の 目的となる 株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | | 当事業年 度末残高 (百万円) |
|------------------------|--------------------------|--------------------|-------------|-------------|------------|-----------------------|
| | | 当事業年度 期首 | 当事業年度 増加 | 当事業年度 減少 | 当事業 年度末 | |
| 平成21年度 ストックオプション(1) | 普通株式 | 16,978,500 | - | 1,075,800 | 15,902,700 | - |
| 平成21年度 ストックオプション(2) | 普通株式 | 1,626,900 | - | 59,400 | 1,567,500 | - |
| 平成22年度 ストックオプション(1) | 普通株式 | 2,310,000 | - | - | 2,310,000 | - |
| 第1回新株予約権 | 普通株式 | 2,955,200 | - | - | 2,955,200 | - |
| 平成23年度 ストックオプション(1) | 普通株式 | 5,930,100 | - | 541,200 | 5,388,900 | - |
| 合計 | | 29,800,700 | - | 1,676,400 | 28,124,300 | - |

- (注) 1 平成21年度ストックオプション(1)、平成21年度ストックオプション(2)及び平成23年度ストックオプション(1)の減少は、新株予約権の失効によるものであります。
- 2 第1回新株予約権の新株予約権の目的となる株式の数は、新株予約権の行使に関する通知が当社に提出された日における、当社の発行済株式数×0.25%に6を乗じた数で算出され、当事業年度末の発行済株式に基づき算出しております。
- 3 平成21年度ストックオプション(1)15,902,700株、平成21年度ストックオプション(2)1,567,500株、平成22年度ストックオプション(1)2,310,000株、第1回新株予約権2,955,200株及び平成23年度ストックオプション(1)2,887,500株は、当事業年度末現在、権利行使期間の初日が到来しておりますが、他の条件が満たされていないため新株予約権を行使することができません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の 総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|--------------------|-------|---------------------|-----------------|------------|------------|
| 平成25年5月27日 取締役会 | 普通株式 | 1,380 | 7.01 | 平成25年3月31日 | 平成25年6月18日 |

- (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
該当事項はありません。

(リース取引関係)

| 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) | |
|---------------------------------------|----------|---------------------------------------|--------|
| オペレーティング・リース取引 解約不能のものに係る未経過リース料 | | オペレーティング・リース取引 解約不能のものに係る未経過リース料 | |
| 1年内 | 750百万円 | 1年内 | 751百万円 |
| 1年超 | 807百万円 | 1年超 | 77百万円 |
| 合計 | 1,558百万円 | 合計 | 828百万円 |

（金融商品関係）

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金に関しては10数行に分散して預入れしておりますが、これら金融機関の破綻及び債務不履行等による信用リスクに晒されており、また一部外貨建て預金を保有しているため為替変動リスクにも晒されております。営業債権である未収委託者報酬、未収収益に関しては、それらの源泉である預り純資産を数行の信託銀行に分散して委託しておりますが、信託銀行はその受託資産を自己勘定と分別して管理しているため、仮に信託銀行が破綻または債務不履行等となった場合でも、これら営業債権が信用リスクに晒されることは無いと考えております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されます。投資有価証券は、主に自己で設定した投資信託へのシードマネーの投入によるものであります。これら投資信託の投資対象は株式、公社債等のため、価格変動リスクや信用リスク、流動性リスク、為替変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金（未払手数料）、未払費用に関しては、すべてが1年以内の支払期日であります。未払金（未払手数料）については、債権（未収委託者報酬）を資金回収した後に、販売会社へ当該債務を支払うフローとなっているため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。また未払費用のうち運用再委託先への顧問料支払に係るものについてもほとんどのものが、未払金同様のフローのため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。それ以外の営業費用及び一般管理費に係る未払費用に関しては、流動性リスクに晒されており、一部は外貨建て債務があるため、為替の変動リスクにも晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、預金を預入れる金融機関の選定に関しては、短期間の取引が想定される金融機関の場合を除き、相手方の財政状態及び経営成績、または必要に応じて格付等を考慮した上で決定しております。また既に取引が行われている相手方に関しても、定期的に継続したモニタリングを行うことで、相手方の財務状況の悪化等による信用リスクを早期に把握することで、リスクの軽減を図っております。

市場リスク（為替や価格等の変動リスク）の管理

当社は、原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての営業債権債務について、月次ベースで為替変動リスクを測定し、モニタリングを実施しております。また投資有価証券に関しては、毎月末にそれぞれの時価を算出し、評価損益を把握しております。また、市場の変動等に基づき、今後の一定期間において特定の確率で、金融商品に生じ得る損失額の推計値を把握するため、バリュエーション・アット・リスクを用いた市場リスク管理を週次ベースで実施しております。これらの結果、当社の財政状態、経営成績に与える影響が著しいと判断される場合には、必要に応じて、ヘッジ取引規程に則り、それを回避する目的で、ヘッジ取引を行うことが可能であります。

流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、日々資金残高管理を行っております。また、適時に資金繰予定表を作成・更新するとともに、手許流動性（最低限必要な運転資金）を状況に応じて見直し・維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日（当事業年度の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

（単位：百万円）

| | 貸借対照表 計上額() | 時価() | 差額 |
|--|-----------------|-------|----|
| | | | |

| | | | |
|-------------|---------|---------|---|
| (1) 現金・預金 | 15,820 | 15,820 | - |
| (2) 未収委託者報酬 | 7,472 | 7,472 | - |
| (3) 未収収益 | 342 | 342 | - |
| (4) 投資有価証券 | | | |
| 其他有価証券 | 7,091 | 7,091 | - |
| (5) 未払金 | (3,862) | (3,862) | - |
| (6) 未払費用 | (3,282) | (3,282) | - |

()負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬並びに(3) 未収収益

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資信託は基準価額によっております。

(5) 未払金及び(6) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2 非上場株式等(貸借対照表計上額79百万円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

3 子会社株式(貸借対照表計上額20,042百万円)及び関連会社株式(貸借対照表計上額2,892百万円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の表には含めておりません。

4 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|---------|--------|-------------|--------------|------|
| 現金・預金 | 15,820 | - | - | - |
| 未収委託者報酬 | 7,472 | - | - | - |
| 未収収益 | 342 | - | - | - |
| 投資有価証券 | | | | |
| 投資信託 | - | 385 | 1,299 | 920 |
| 合計 | 23,635 | 385 | 1,299 | 920 |

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金に関しては10数行に分散して預入れしておりますが、これら金融機関の破綻及び債務不履行等による信用リスクに晒されており、また一部外貨建て預金を保有しているため為替変動リスクにも晒されております。営業債権である未収委託者報酬、未収収益に関しては、それらの源泉である預り純資産を数行の信託銀行に分散して委託しておりますが、信託銀行はその受託資産を自己勘定と分別して管理しているため、仮に信託銀行が破綻または債務不履行等となった場合でも、これら営業債権が信用リスクに晒されることは無いと考えております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されます。投資有価証券は、主に自己で設定した投資信託へのシードマネーの投入によるものであります。これら投資信託の投資対象は株式、公社債等のため、価格変動リスク

や信用リスク、流動性リスク、為替変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金（未払手数料）、未払費用に関しては、すべてが1年以内の支払期日でありませぬ。未払金（未払手数料）については、債権（未収委託者報酬）を資金回収した後に、販売会社へ当該債務を支払うフローとなっているため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。また未払費用のうち運用再委託先への顧問料支払に係るものについてもほとんどのものが、未払金同様のフローのため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。それ以外の営業費用及び一般管理費に係る未払費用に関しては、流動性リスクに晒されており、一部は外貨建て債務があるため、為替の変動リスクにも晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、預金を預入れる金融機関の選定に関しては、短期間の取引が想定される金融機関の場合を除き、相手方の財政状態及び経営成績、または必要に応じて格付等を考慮した上で決定しております。また既に取引が行われている相手方に関しても、定期的に継続したモニタリングを行うことで、相手方の財務状況の悪化等による信用リスクを早期に把握することで、リスクの軽減を図っております。

市場リスク（為替や価格等の変動リスク）の管理

当社は、原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりませぬ。外貨建ての営業債権債務について、月次ベースで為替変動リスクを測定し、モニタリングを実施しております。また投資有価証券に関しては、毎月末にそれぞれの時価を算出し、評価損益を把握しております。また、市場の変動等に基づき、今後の一定期間において特定の確率で、金融商品に生じ得る損失額の推計値を把握するため、バリュー・アット・リスクを用いた市場リスク管理を週次ベースで実施しております。これらの結果、当社の財政状態、経営成績に与える影響が著しいと判断される場合には、必要に応じて、ヘッジ取引規程に則り、それを回避する目的で、ヘッジ取引を行うことが可能であります。

流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、日々資金残高管理を行っております。また、適時に資金繰予定表を作成・更新するとともに、手許流動性（最低限必要な運転資金）を状況に応じて見直し・維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日（当事業年度の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりませぬ。

（単位：百万円）

| | 貸借対照表 計上額() | 時価() | 差額 |
|----------------------------|-----------------|---------|----|
| (1) 現金・預金 | 17,805 | 17,805 | - |
| (2) 未収委託者報酬 | 7,162 | 7,162 | - |
| (3) 未収収益 | 608 | 608 | - |
| (4) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券 | 7,457 | 7,457 | - |
| (5) 未払金 | (3,404) | (3,404) | - |
| (6) 未払費用 | (3,239) | (3,239) | - |

()負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬並びに(3) 未収収益

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

投資信託は基準価額によっております。

(5) 未払金及び(6) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- 2 非上場株式等（貸借対照表計上額66百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。
- 3 子会社株式（貸借対照表計上額18,809百万円）及び関連会社株式（貸借対照表計上額2,892百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の表には含めておりません。
- 4 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：百万円）

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|----------------------|--------|-------------|--------------|------|
| 現金・預金 | 17,805 | - | - | - |
| 未収委託者報酬 | 7,162 | - | - | - |
| 未収収益 | 608 | - | - | - |
| 有価証券及び投資有価証券 投資信託 | 234 | 315 | 1,166 | 973 |
| 合計 | 25,811 | 315 | 1,166 | 973 |

（有価証券関係）

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 子会社株式及び関連会社株式

（単位：百万円）

| | 貸借対照表計上 額 |
|--------|--------------|
| 子会社株式 | 20,042 |
| 関連会社株式 | 2,892 |

(注) 子会社株式及び関連会社株式は市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価を記載しておりません。

2 その他有価証券

（単位：百万円）

| | 種類 | 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|--------------------------|------|----------|-------|-----|
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | 投資信託 | 6,366 | 5,708 | 658 |
| | 小計 | 6,366 | 5,708 | 658 |
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | 投資信託 | 724 | 821 | 96 |
| | 小計 | 724 | 821 | 96 |
| 合計 | | 7,091 | 6,529 | 561 |

(注) 1 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。当事業年度については、該当ございません。

- 2 非上場株式等（貸借対照表計上額 79百万円）については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

| 種類 | 売却額 | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|------|-------|---------|---------|
| 株式 | 43 | 35 | 67 |
| 投資信託 | 1,099 | 190 | 17 |
| 合計 | 1,143 | 226 | 84 |

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

| | 貸借対照表計上額 |
|--------|----------|
| 子会社株式 | 18,809 |
| 関連会社株式 | 2,892 |

(注) 子会社株式及び関連会社株式は市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価を記載しておりません。

2 その他有価証券

(単位：百万円)

| | 種類 | 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|----------------------|------|----------|-------|-----|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | 投資信託 | 3,819 | 3,188 | 631 |
| | 小計 | 3,819 | 3,188 | 631 |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 投資信託 | 3,637 | 3,768 | 130 |
| | 小計 | 3,637 | 3,768 | 130 |
| 合計 | | 7,457 | 6,957 | 500 |

(注) 1 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。当事業年度については、該当ございません。

2 非上場株式等（貸借対照表計上額 66百万円）については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

| 種類 | 売却額 | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|------|-------|---------|---------|
| 株式 | 23 | 11 | - |
| 投資信託 | 1,734 | 124 | 12 |
| 合計 | 1,758 | 135 | 12 |

(持分法損益等)

| | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|---------------------------------------|---------------------------------------|

| 関連会社に持分法を適用した場合の投資損益等 (単位：百万円) | 関連会社に持分法を適用した場合の投資損益等 (単位：百万円) |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| (1) 関連会社に対する投資の金額 3,069 | (1) 関連会社に対する投資の金額 3,065 |
| (2) 持分法を適用した場合の投資の金額 6,280 | (2) 持分法を適用した場合の投資の金額 7,660 |
| (3) 持分法を適用した場合の投資利益の金額 1,159 | (3) 持分法を適用した場合の投資利益の金額 1,379 |

(退職給付関係)

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型企業年金制度及びキャッシュバランスプラン型退職金制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項

(単位：百万円)

| | |
|---------------|-------|
| イ 退職給付債務 | 1,101 |
| ロ 未積立退職給付債務 | 1,101 |
| ハ 未認識数理計算上の差異 | 99 |
| ニ 退職給付引当金残高 | 1,001 |

3 退職給付費用に関する事項

(単位：百万円)

| | |
|------------------|-----|
| イ 勤務費用 | 102 |
| ロ 利息費用 | 13 |
| ハ 数理計算上の差異の費用処理額 | 24 |
| ニ 確定拠出型企業年金への掛金 | 171 |
| ホ 退職給付費用合計 | 312 |

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | |
|------------------|--------|
| イ 退職給付見込額の期間配分方法 | 勤続期間比例 |
| ロ 割引率 | 0.9% |
| ハ 数理計算上の差異の処理年数 | 10年 |

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型企業年金制度及びキャッシュバランスプラン型退職金制度を設けております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

| | | |
|--------------|-------|-----|
| 退職給付債務の期首残高 | 1,101 | 百万円 |
| 勤務費用 | 110 | " |
| 利息費用 | 9 | " |
| 数理計算上の差異の発生額 | 9 | " |
| 退職給付の支払額 | 56 | " |
| 退職給付債務の期末残高 | 1,174 | " |

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

| | | |
|-----------------|-------|-----|
| 退職給付債務 | 1,174 | 百万円 |
| 未積立退職給付債務 | 1,174 | " |
| 未認識数理計算上の差異 | 92 | " |
| 貸借対照表に計上された負債の額 | 1,081 | " |

| | | |
|-----------------|-------|-----|
| 退職給付引当金 | 1,081 | 百万円 |
| 貸借対照表に計上された負債の額 | 1,081 | " |

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

| | | |
|-----------------|-----|-----|
| 勤務費用 | 110 | 百万円 |
| 利息費用 | 9 | " |
| 数理計算上の差異の費用処理額 | 16 | " |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 137 | " |

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

| | |
|-----|------|
| 割引率 | 0.8% |
|-----|------|

3 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、176百万円でありました。

(ストックオプション等関係)

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 スtockオプション(新株予約権)の内容、規模及びその変動状況

(1) スtockオプション(新株予約権)の内容

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|--------------------------|---|--------------------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 271名 | 当社及び関係会社 の取締役・従業員 48名 |
| 株式の種類別のストックオプションの付与数 (注) | 普通株式 19,724,100株 | 普通株式 1,702,800株 |
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利確定条件 | 平成24年1月22日(以下「権利行使可能初日」といいます。)、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 同左 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | 同左 |
| 権利行使期間 | 平成24年1月22日から 平成32年1月21日まで | 同左 |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|--------------|--------------------|---------------------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社の従業員 1名 | 当社及び関係会社 の取締役・従業員 186名 |

| | | |
|--------------------------|---|---|
| 株式の種類別のストックオプションの付与数 (注) | 普通株式 2,310,000株 | 普通株式 6,101,700株 |
| 付与日 | 平成22年8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利確定条件 | 平成24年1月22日(以下「権利行使可能初日」といいます。)、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 平成25年10月7日(以下「権利行使可能初日」といいます。)、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで |
| 権利行使期間 | 平成24年1月22日から 平成32年1月21日まで | 平成25年10月7日から 平成33年10月6日まで |

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストックオプション(新株予約権)の規模及びその変動状況

ストックオプション(新株予約権)の数

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 19,215,900 | 1,676,400 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 2,237,400 | 49,500 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 16,978,500 | 1,626,900 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 2,310,000 | 6,091,800 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 0 | 161,700 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 2,310,000 | 5,930,100 |
| 権利確定後(株) | | |

| | | |
|--------|---|---|
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

(注) 株式数に換算して記載しております。

単価情報

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|-------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年 2月 8日 | 平成22年 8月20日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 625 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注) 1 | 0 | 0 |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|-------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年 8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 737 (注) 3 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注) 1 | 0 | 0 |

(注) 1 公正な評価単価に代え、本源的価値（取引事例比準法による評価額と行使価格との差額）の見積りによっております。

- 2 スtockオプションの単位当たりの本源的価値による算定を行った場合の本源的価値の合計額
当事業年度末における本源的価値の合計額 - 百万円
- 3 株式公開価格が737円（割当日後、株式の分割又は併合が行われたときは、当該金額は、当該株式の分割又は併合の内容を適切に反映するよう調整される。）を上回る金額に定められた場合には、株式公開日において、権利行使価格は株式公開価格と同一の金額に調整されます。

第55期(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

1 スtockオプション(新株予約権)の内容、規模及びその変動状況

(1) スtockオプション(新株予約権)の内容

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|--------------------------|---|----------------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び関係会社の取締役・従業員 271名 | 当社及び関係会社の取締役・従業員 48名 |
| 株式の種類別のストックオプションの付与数 (注) | 普通株式 19,724,100株 | 普通株式 1,702,800株 |
| 付与日 | 平成22年 2月 8日 | 平成22年 8月20日 |
| 権利確定条件 | 平成24年 1月22日（以下「権利行使可能初日」といいます。）、当該権利行使可能初日から 1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から 2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の 2分の 1、4分の 1、4分の 1 ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 同左 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から 2年を経過した日まで | 同左 |
| 権利行使期間 | 平成24年 1月22日から 平成32年 1月21日まで | 同左 |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|-------------------------|---|---|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社の従業員 1名 | 当社及び関係会社の取締役・従業員 186名 |
| 株式の種類別のストックオプションの付与数（注） | 普通株式 2,310,000株 | 普通株式 6,101,700株 |
| 付与日 | 平成22年8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利確定条件 | 平成24年1月22日（以下「権利行使可能初日」といいます。）、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 平成25年10月7日（以下「権利行使可能初日」といいます。）、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで |
| 権利行使期間 | 平成24年1月22日から平成32年1月21日まで | 平成25年10月7日から平成33年10月6日まで |

（注） 株式数に換算して記載しております。

(2) スtockオプション(新株予約権)の規模及びその変動状況

ストックオプション（新株予約権）の数

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 16,978,500 | 1,626,900 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 1,075,800 | 59,400 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 15,902,700 | 1,567,500 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 2,310,000 | 5,930,100 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 0 | 541,200 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 2,310,000 | 5,388,900 |
| 権利確定後(株) | | |

| | | |
|--------|---|---|
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

(注) 株式数に換算して記載しております。

単価情報

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 625 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注)1 | 0 | 0 |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 737 (注)3 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注)1 | 0 | 0 |

(注)1 公正な評価単価に代え、本源的価値(取引事例比準法による評価額と行使価格との差額)の見積りによっております。

2 スtockオプションの単位当たりの本源的価値による算定を行った場合の本源的価値の合計額
当事業年度末における本源的価値の合計額 - 百万円

3 株式公開価格が737円(割当日後、株式の分割又は併合が行われたときは、当該金額は、当該株式の分割又は併合の内容を適切に反映するよう調整される。)を上回る金額に定められた場合には、株式公開日において、権利行使価格は株式公開価格と同一の金額に調整されます。

(税効果会計関係)

| | |
|----------------------|----------------------|
| 第54期 (平成25年3月31日) | 第55期 (平成26年3月31日) |
|----------------------|----------------------|

| 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 | (単位：百万円) | 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 | (単位：百万円) |
|---|----------|--|----------|
| 繰延税金資産(流動) | | 繰延税金資産(流動) | |
| 賞与引当金繰入超過額 | 672 | 賞与引当金繰入超過額 | 689 |
| その他 | 196 | その他 | 294 |
| 小計 | 869 | 小計 | 984 |
| 繰延税金資産(固定) | | 繰延税金資産(固定) | |
| 投資有価証券評価損 | 149 | 投資有価証券評価損 | 148 |
| 退職給付引当金超過額 | 361 | 関係会社株式評価損 | 1,665 |
| 固定資産減価償却超過額 | 174 | 退職給付引当金超過額 | 385 |
| その他 | 75 | 固定資産減価償却超過額 | 158 |
| 小計 | 760 | その他 | 34 |
| 繰延税金資産小計 | 1,630 | 小計 | 2,391 |
| 評価性引当金 | 61 | 繰延税金資産小計 | 3,375 |
| 繰延税金資産合計 | 1,568 | 評価性引当金 | 1,665 |
| | | 繰延税金資産合計 | 1,710 |
| 繰延税金負債(固定) | | 繰延税金負債(固定) | |
| その他有価証券評価差額金 | 199 | その他有価証券評価差額金 | 200 |
| 繰延税金負債合計 | 199 | 繰延税金負債合計 | 200 |
| 繰延税金資産の純額 | 1,369 | 繰延税金資産の純額 | 1,510 |
| 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 | | 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 | |
| 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。 | | 法定実効税率 | 38.0% |
| | | (調整) | |
| | | 評価性引当金の増減 | 46.6% |
| | | 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 3.7% |
| | | 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | 12.9% |
| | | 税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 | 1.9% |
| | | 海外子会社の留保利益の影響額等 | 6.9% |
| | | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 84.2% |

| | |
|----------------------|----------------------|
| 第54期 (平成25年3月31日) | 第55期 (平成26年3月31日) |
|----------------------|----------------------|

| | |
|--|--|
| | <p>3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正</p> <p>「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)の施行に伴い、「復興特別法人税に関する政令の一部を改正する政令」(平成26年政令第151号)が平成26年3月31日に公布されたことにより、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、平成26年4月1日に開始する事業年度において解消が見込まれる一時差異について、当社が使用した法定実効税率は38.0%から35.6%に変更されております。この結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は65百万円減少し、その他有価証券評価差額金の金額が1百万円、法人税等調整額の金額が63百万円、それぞれ増加しております。</p> |
|--|--|

(関連当事者情報)

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社

重要な該当事項はありません。

(イ) 財務諸表提出会社の子会社

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金(千SGD) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|-----|--|---------|----------------|-------------|-------------------|-----------|-----------------------|------------------------|-----------|------------------------|
| 子会社 | Nikko Asset Management International Limited | シンガポール国 | 252,000 | アセットマネジメント業 | 直接100.00 | 資金の貸付 | 資金の貸付(シンガポールドル貸建)(注1) | 525 (千SGD 8,000) | 関係会社短期貸付金 | 606 (千SGD 8,000) |
| | | | | | | | 貸付金利息(シンガポールドル貸建)(注1) | 5 (千SGD 76) | 未収収益 | 5 (千SGD 76) |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 融資枠SGD11百万、返済期間1年間のリボルビング・ローンで、金利は市場金利を勘案して決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社(東京証券取引所等に上場)

三井住友信託銀行株式会社(非上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当事業年度において、重要な関連会社は融通(ロントン)基金管理有限公司であり、その要約財務情報は以下のとおりであります。なお、下記数値は平成24年12月31日に終了した年度の財務諸表を当日の直物為替相場で円貨に換算したものであります。

| | |
|------|-----------|
| 資産合計 | 10,930百万円 |
| 負債合計 | 1,103百万円 |

| | |
|----------|----------|
| 純資産合計 | 9,826百万円 |
| 営業収益 | 7,917百万円 |
| 税引前当期純利益 | 2,801百万円 |
| 当期純利益 | 2,091百万円 |

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社

重要な該当事項はありません。

(イ) 財務諸表提出会社の子会社

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金(千SGD) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|-----|--|---------|----------------|-------------|-------------------|-----------|-----------------------|---------------------------------|---------------|-------------------------|
| 子会社 | Nikko Asset Management International Limited | シンガポール国 | 292,000 | アセットマネジメント業 | 直接 100.00 | 資金の貸付 | 資金の貸付(シンガポールドル貸建)(注1) | 398 (千 SGD 5,059) (注2) | 関係会社 短期貸付金 | 240 (千 SGD 2,940) |
| | | | | | | | 貸付金利息(シンガポールドル貸建)(注1) | 15 (千 SGD 192) | 未収収益 | 5 (千 SGD 64) |
| | | | | | | | 増資の引受(注3) | 3,266 (千 SGD 40,000) | - | - |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 融資枠SGD11百万、返済期間1年間のリボルビング・ローンで、金利は市場金利を勘案して決定しております。
- 資金の貸付に係る取引金額 398百万円(5,059千 SGD)の内訳は、貸付240百万円(2,940千 SGD)及び返済 638百万円(8,000千 SGD)であります。
- Nikko Asset Management International Limitedの行った40,000,000株の新株発行増資を、1株につき1シンガポールドルで当社が引受けたものであります。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社(東京証券取引所等に上場)

三井住友信託銀行株式会社(非上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当事業年度において、重要な関連会社は融通(ロンドン)基金管理有限公司であり、その要約財務情報は以下のとおりであります。なお、下記数値は平成25年12月31日に終了した年度の財務諸表を当日の直物為替相場で円貨に換算したものであります。

| | |
|-------|-----------|
| 資産合計 | 15,790百万円 |
| 負債合計 | 1,713百万円 |
| 純資産合計 | 14,076百万円 |

| | |
|----------|-----------|
| 営業収益 | 11,350百万円 |
| 税引前当期純利益 | 4,212百万円 |
| 当期純利益 | 3,096百万円 |

（セグメント情報等）

セグメント情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

関連情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

2 地域ごとの情報

（1）営業収益

国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しておりません。

（2）有形固定資産

国外に所在している有形固定資産が無いため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める単一の外部顧客が無いため、記載しておりません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

2 地域ごとの情報

（1）営業収益

国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しておりません。

（2）有形固定資産

国外に所在している有形固定資産が無いため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める単一の外部顧客が無いため、記載しておりません。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

| 項目 | 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|--------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1株当たり純資産額 | 235円69銭 | 231円23銭 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 14円35銭 | 2円76銭 |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権の残高はありますが、当社株式が非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので、希薄化効果を算定できないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|--|---|---|
| 当期純利益(百万円) | 2,827 | 544 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る当期純利益(百万円) | 2,827 | 544 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 196,903 | 196,903 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要 | 平成21年度ストックオプション(1) 16,978,500株、平成21年度ストックオプション(2) 1,626,900株、平成22年度ストックオプション(1) 2,310,000株、第1回新株予約権2,955,200株、平成23年度ストックオプション(1) 5,930,100株 | 平成21年度ストックオプション(1) 15,902,700株、平成21年度ストックオプション(2) 1,567,500株、平成22年度ストックオプション(1) 2,310,000株、第1回新株予約権2,955,200株、平成23年度ストックオプション(1) 5,388,900株 |

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 第54期 (平成25年3月31日) | 第55期 (平成26年3月31日) |
|----------------|----------------------|----------------------|
| 純資産の部の合計額(百万円) | 46,408 | 45,531 |

| | | |
|---------------------------------|---------|---------|
| 純資産の部の合計額から控除する金額（百万円） | - | - |
| 普通株式に係る期末の純資産額（百万円） | 46,408 | 45,531 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数（千株） | 196,903 | 196,903 |

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

中間財務諸表等

（１）中間貸借対照表

(単位：百万円)

| | | 第56期中間会計期間 (平成26年9月30日) |
|------------|---|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | | 15,789 |
| 有価証券 | | 226 |
| 未収委託者報酬 | | 6,584 |
| 未収収益 | | 938 |
| 関係会社短期貸付金 | | 258 |
| 繰延税金資産 | | 487 |
| その他 | 2 | 2,365 |
| 流動資産合計 | | 26,649 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1 | 235 |
| 無形固定資産 | | 92 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | | 9,667 |
| 関係会社株式 | | 21,702 |
| 関係会社長期貸付金 | | 60 |
| 長期差入保証金 | | 683 |
| 繰延税金資産 | | 357 |
| 投資その他の資産合計 | | 32,471 |
| 固定資産合計 | | 32,799 |
| 資産合計 | | 59,448 |

(単位：百万円)

| | | 第56期中間会計期間 (平成26年9月30日) |
|------|--|----------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | | 3,203 |

| | | |
|--------------|---|--------|
| 未払費用 | | 3,470 |
| 未払法人税等 | | 871 |
| 未払消費税等 | 3 | 550 |
| 賞与引当金 | | 875 |
| 役員賞与引当金 | | 120 |
| その他 | | 671 |
| 流動負債合計 | | 9,763 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | | 1,071 |
| 固定負債合計 | | 1,071 |
| 負債合計 | | 10,834 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | 17,363 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | 5,220 |
| 資本剰余金合計 | | 5,220 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | | 25,511 |
| 利益剰余金合計 | | 25,511 |
| 自己株式 | | 68 |
| 株主資本合計 | | 48,026 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | 587 |
| 評価・換算差額等合計 | | 587 |
| 純資産合計 | | 48,614 |
| 負債純資産合計 | | 59,448 |

(2) 中間損益計算書

(単位：百万円)

| | | 第56期中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日) |
|-------------|---|---|
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | | 30,757 |
| その他営業収益 | | 1,678 |
| 営業収益合計 | | 32,435 |
| 営業費用及び一般管理費 | 1 | 29,279 |
| 営業利益 | | 3,156 |
| 営業外収益 | 2 | 862 |
| 営業外費用 | 3 | 86 |
| 経常利益 | | 3,931 |
| 特別利益 | 4 | 174 |
| 特別損失 | 5 | 3 |
| 税引前中間純利益 | | 4,102 |

| | |
|--------------|-------|
| 法人税、住民税及び事業税 | 831 |
| 法人税等調整額 | 495 |
| 中間純利益 | 2,775 |

(3) 中間株主資本等変動計算書

第56期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | | | |
|-------------------------------|--------|-------|-------------|-----------------------------|-----------------|------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | 株主資本 合計 |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金 合計 | その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金 | 利益 剰余金 合計 | | |
| 当期首残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 22,694 | 22,694 | 68 | 45,209 |
| 会計方針の変更による 累積的影響額 | | | | 41 | 41 | | 41 |
| 会計方針の変更を反映した 当期首残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 22,735 | 22,735 | 68 | 45,250 |
| 当中間期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | |
| 中間純利益 | | | | 2,775 | 2,775 | | 2,775 |
| 株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純 額） | | | | | | | |
| 当中間期変動額合計 | - | - | - | 2,775 | 2,775 | - | 2,775 |
| 当中間期末残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 25,511 | 25,511 | 68 | 48,026 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-------------------------------|----------------------|----------------|--------|
| | その他 有価証券 評価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 321 | 321 | 45,531 |
| 会計方針の変更による 累積的影響額 | | | 41 |
| 会計方針の変更を反映した 当期首残高 | 321 | 321 | 45,572 |
| 当中間期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | | | |
| 中間純利益 | | | 2,775 |
| 株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純 額） | 265 | 265 | 265 |
| 当中間期変動額合計 | 265 | 265 | 3,041 |
| 当中間期末残高 | 587 | 587 | 48,614 |

注記事項

（重要な会計方針）

| 項目 | 第56期中間会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日) |
|-----------------------------|--|
| 1 資産の評価基準及び評価方法 | <p>有価証券</p> <p>子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法</p> <p>その他有価証券 時価のあるもの 中間決算末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、総平均法により算定)</p> <p>時価のないもの 総平均法による原価法</p> |
| 2 固定資産の減価償却の方法 | <p>(1) 有形固定資産 定率法により償却しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法により償却しております。なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> |
| 3 引当金の計上基準 | <p>(1) 賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払に充てるため、支払見込額に基づき当中間会計期間負担額を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金 役員に支給する賞与の支払に充てるため、支払見込額に基づき当中間会計期間負担額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>数理計算上の差異の費用処理方法 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日から費用処理しております。</p> |
| 4 その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | <p>消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税等は、当中間会計期間の費用として処理しております。</p> |

（会計方針の変更）

| |
|---|
| <p>第56期中間会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)</p> |
|---|

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当中間会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を平均残存勤務年数に対応した高格付社債の流通利回りを基礎とする方法から退職給付の支払見込期間及び期間毎の金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当中間会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を繰越利益剰余金に加減しております。

この結果、当中間会計期間の期首の退職給付引当金が63百万円減少、繰延税金資産が22百万円減少、繰越利益剰余金が41百万円増加しております。また、当中間会計期間の営業利益、経常利益及び税引前中間純利益への影響は軽微であります。なお、1株当たり純資産額及び1株当たり中間純利益金額に対する影響額は、軽微であります。

(中間貸借対照表関係)

| 第56期中間会計期間 (平成26年9月30日) | |
|----------------------------|---|
| 1 | 有形固定資産の減価償却累計額 1,750百万円 |
| 2 | 信託資産 その他流動資産のうち180百万円は、「直販顧客分別金信託契約」により、野村信託銀行株式会社に信託しております。 |
| 3 | 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。 |
| 4 | 保証債務 当社は、Nikko Asset Management Europe Ltd がロンドン ウォール リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務47百万円に対して保証を行っております。また当社は、Nikko Asset Management Americas, Inc. がマディソンタワー アソシエイツ リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務113百万円に対して保証を行っております。 |

(中間損益計算書関係)

| 第56期中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日) | |
|---|---|
| 1 | 減価償却実施額 有形固定資産 50百万円 無形固定資産 16百万円 |
| 2 | 営業外収益のうち主要なもの 受取利息 3百万円 受取配当金 761百万円 |
| 3 | 営業外費用のうち主要なもの 支払利息 10百万円 時効成立後支払分配金・償還金 4百万円 支払源泉所得税 71百万円 |
| 4 | 特別利益のうち主要なもの 投資有価証券売却益 174百万円 |
| 5 | 特別損失のうち主要なもの 投資有価証券売却損 3百万円 |

(中間株主資本等変動計算書関係)

第56期中間会計期間（自平成26年4月1日至平成26年9月30日）

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当中間会計期間増加 | 当中間会計期間減少 | 当中間会計期間末 |
|---------|-------------|-----------|-----------|-------------|
| 普通株式（株） | 197,012,500 | - | - | 197,012,500 |

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当中間会計期間増加 | 当中間会計期間減少 | 当中間会計期間末 |
|---------|---------|-----------|-----------|----------|
| 普通株式（株） | 109,600 | - | - | 109,600 |

3 新株予約権等に関する事項

| 新株予約権の内訳 | 新株予約権の目的となる株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | | 当中間会計期間末残高(百万円) |
|--------------------|------------------|--------------------|-----------|-----------|------------|-----------------|
| | | 当事業年度期首 | 当中間会計期間増加 | 当中間会計期間減少 | 当中間会計期間末 | |
| 平成21年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 15,902,700 | - | - | 15,902,700 | - |
| 平成21年度ストックオプション(2) | 普通株式 | 1,567,500 | - | - | 1,567,500 | - |
| 平成22年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 2,310,000 | - | - | 2,310,000 | - |
| 第1回新株予約権 | 普通株式 | 2,955,200 | - | - | 2,955,200 | - |
| 平成23年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 5,388,900 | - | 330,000 | 5,058,900 | - |
| 合計 | | 28,124,300 | - | 330,000 | 27,794,300 | - |

(注) 1 平成23年度ストックオプション(1)の減少は、新株予約権の失効によるものであります。

2 第1回新株予約権の新株予約権の目的となる株式の数は、新株予約権の行使に関する通知が当社に提出された日における、当社の発行済株式数×0.25%に6を乗じた数で算出され、当中間会計期間末の発行済株式に基づき算出しております。

3 平成21年度ストックオプション(1)15,902,700株、平成21年度ストックオプション(2)1,567,500株、平成22年度ストックオプション(1)2,310,000株、平成23年度ストックオプション(1)2,887,500株及び第1回新株予約権2,955,200株は、当中間会計期間末現在、権利行使期間の初日が到来しておりますが、他の条件が満たされていないため新株予約権を行使することができません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(リース取引関係)

| |
|---|
| 第56期中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日) |
| オペレーティング・リース取引 |

| | |
|-------------------|----------|
| 解約不能のものに係る未経過リース料 | |
| 1年内 | 766百万円 |
| 1年超 | 3,502百万円 |
| 合計 | 4,268百万円 |

（金融商品関係）

第56期中間会計期間(平成26年9月30日)

1 金融商品の時価等に関する事項

平成26年9月30日（当中間決算日）における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

（単位：百万円）

| | 中間貸借対照表 計上額() | 時価() | 差額 |
|----------------------------|-------------------|---------|----|
| (1) 現金及び預金 | 15,789 | 15,789 | - |
| (2) 未収委託者報酬 | 6,584 | 6,584 | - |
| (3) 未収収益 | 938 | 938 | - |
| (4) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券 | 9,864 | 9,864 | - |
| (5) 未払金 | (3,203) | (3,203) | - |
| (6) 未払費用 | (3,470) | (3,470) | - |

()負債に計上されているものについては、()で示しております。

（注）1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 未収委託者報酬並びに(3) 未収収益

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

投資信託は基準価額によっております。

(5) 未払金及び(6) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2 非上場株式等（中間貸借対照表計上額30百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

3 子会社株式（中間貸借対照表計上額18,809百万円）及び関連会社株式（中間貸借対照表計上額2,892百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の表には含めておりません。

（有価証券関係）

第56期中間会計期間(平成26年9月30日)

1 子会社株式及び関連会社株式

（単位：百万円）

| | 中間貸借対照表計上額 |
|--------|------------|
| 子会社株式 | 18,809 |
| 関連会社株式 | 2,892 |

(注) 子会社株式及び関連会社株式は市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価を記載しておりません。

2 その他有価証券

(単位：百万円)

| | 種類 | 中間貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|------------------------|------|------------|-------|-------|
| 中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | 投資信託 | 8,573 | 7,543 | 1,029 |
| | 小計 | 8,573 | 7,543 | 1,029 |
| 中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 投資信託 | 1,291 | 1,407 | 116 |
| | 小計 | 1,291 | 1,407 | 116 |
| 合計 | | 9,864 | 8,951 | 913 |

(注) 1 減損処理にあたっては、中間期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。当中間会計期間については、該当ございません。

2 非上場株式等(中間貸借対照表計上額 30百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(持分法損益等)

| 第56期中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日) | |
|---|----------|
| 関連会社に持分法を適用した場合の投資損益等 | |
| (1) 関連会社に対する投資の金額 | 3,075百万円 |
| (2) 持分法を適用した場合の投資の金額 | 7,780百万円 |
| (3) 持分法を適用した場合の投資利益の金額 | 762百万円 |

(ストックオプション等関係)

第56期中間会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

第56期中間会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

関連情報

第56期中間会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

国外に所在している有形固定資産が無いため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める単一の外部顧客が無いため、記載しておりません。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

第56期中間会計期間(自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

第56期中間会計期間(自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

第56期中間会計期間(自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

| 項目 | 第56期中間会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日) |
|--------------|--|
| 1株当たり純資産額 | 246円89銭 |
| 1株当たり中間純利益金額 | 14円09銭 |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、新株予約権等の残高はありますが、当社株式が非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので、希薄化効果を算定できないため記載しておりません。

2 1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 第56期中間会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日) |
|--|---|
| 中間純利益(百万円) | 2,775 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - |
| 普通株式に係る中間純利益(百万円) | 2,775 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 196,903 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要 | 平成21年度ストックオプション(1)15,902,700株、平成21年度ストックオプション(2)1,567,500株、平成22年度ストックオプション(1)2,310,000株、第1回新株予約権2,955,200株、平成23年度ストックオプション(1)5,058,900株 |

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 第56期中間会計期間 (平成26年 9月30日) |
|------------------------|-----------------------------|
| 中間貸借対照表の純資産の部の合計額(百万円) | 48,614 |

| | |
|--------------------------------------|---------|
| 純資産の部の合計額から控除する金額（百万円） | - |
| 普通株式に係る中間会計期間末の純資産額（百万円） | 48,614 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた中間会計期間末の普通株式の数（千株） | 196,903 |

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- （１）自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- （２）運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- （３）通常の実取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下（４）、（５）において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行なうこと。
- （４）委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。
- （５）上記（３）、（４）に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

（１）定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

（２）訴訟事件その他の重要事項

委託会社に重要な影響を与えた事実、または与えると予想される訴訟事件などは発生していません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

（１）受託会社

| 名 称 | 資本金の額 （平成26年9月末現在） | 事業の内容 |
|--------------|-----------------------|---|
| 三井住友信託銀行株式会社 | 342,037百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。 |

<再信託受託会社の概要>

名称：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

資本金の額：51,000百万円（平成26年9月末現在）

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託業務の一部（信託財産の管理）を原信託受託者から再信託受託者（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託者へ移管することを目的とします。

（２）販売会社

| 名 称 | 資本金の額 (平成26年9月末現在) | 事業の内容 |
|------------------|-----------------------|---|
| 野村證券株式会社 | 10,000百万円 | 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 342,037百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。 |
| 日興アセットマネジメント株式会社 | 17,363百万円 | 証券投資信託の設定を行なうとともに金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行なっています。また金融商品取引法に定める投資助言業務を行なっています。 |

2【関係業務の概要】

（１）受託会社

ファンドの信託財産に属する有価証券の管理・計算事務などを行ないます。

（２）販売会社

日本におけるファンドの募集、解約、収益分配金および償還金の取扱いなどを行ないます。

3【資本関係】

（１）受託会社

三井住友信託銀行株式会社は、日興アセットマネジメント株式会社の発行済株式総数の91.29%を保有しております。（平成26年9月末現在）

（２）販売会社

三井住友信託銀行株式会社は、日興アセットマネジメント株式会社の発行済株式総数の91.29%を保有しております。（平成26年9月末現在）

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

| 提出年月日 | 提出書類 |
|-------------|---------|
| 平成26年 6月30日 | 臨時報告書 |
| 平成26年 9月17日 | 有価証券届出書 |
| 平成26年 9月17日 | 有価証券報告書 |
| 平成26年 9月30日 | 臨時報告書 |

独立監査人の監査報告書

平成26年6月13日

日興アセットマネジメント株式会社
取締役会御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 羽 太 典 明
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 秋 宗 勝 彦
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている日興アセットマネジメント株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第55期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日興アセットマネジメント株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1.上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年1月28日

日興アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員指定社員 公認会計士 辻村 和之
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース>（毎月分配型）の平成26年6月18日から平成26年12月17日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース>（毎月分配型）の平成26年12月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

日興アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1.上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年1月28日

日興アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員指定社員 公認会計士 辻村 和之
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>（毎月分配型）の平成26年6月18日から平成26年12月17日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース>（毎月分配型）の平成26年12月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

日興アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1.上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年1月28日

日興アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

指定社員 公認会計士 辻村 和之
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース>（毎月分配型）の平成26年6月18日から平成26年12月17日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース>（毎月分配型）の平成26年12月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

日興アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1.上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成26年12月5日

日興アセットマネジメント株式会社
取締役会御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 羽 太 典 明
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 秋 宗 勝 彦
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている日興アセットマネジメント株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第56期事業年度の中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、日興アセットマネジメント株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。